

人生 100 年 !! 笑って生きる



中 長 期 経 営 事 業 計 画

2018（平成 30）年度～2024（平成 36）年度

平成 30 年 5 月

『人生１００年！！ 笑って生きる』

多くの高齢者が「生涯現役社会」で生きがいを持って活躍するには、高齢者の年齢や性別に係らず、個々の能力（知識、経験、体力、気力、技術、特技等）や個性（趣味等）に着目して、様々な活躍のステージを柔軟に、幅広く準備することが大切です。従前からの就業に加えて、新たな就業機会を「笑って生きる」をコンセプトに準備します。

「笑う」は楽しさに通じます。楽しさは「継続」に繋がります。また、豊富な経験を有する高齢者は、寛容・寛大に振る舞うことができます。このことも笑いに繋がります。より多くの高齢者が『人生１００年！！ 笑って生きる』ことができますようにとの思いを込めました。

はじめに

公益社団法人大津市シルバー人材センターは、昭和 56 年 2 月 10 日に「社団法人シルバー人材センター大津市高齢者事業団」として設立認可を受け、同年 2 月 20 日から業務を開始し、昭和 62 年 5 月 26 日に「社団法人大津市シルバー人材センター」に改称いたしました。平成 5 年 10 月には、地域福祉向上の一助として、「福祉・家事援助サービス」を新規事業として業務開始したところです。平成 18 年 4 月 1 日には市町合併により、大津市と志賀町のシルバー人材センターの統合が実施されました。また、平成 20 年 12 月に公益法人制度改革 3 法が施行されましたことから、当シルバー人材センターも平成 23 年 9 月 1 日から現在の「公益社団法人大津市シルバー人材センター」として認定を受け、現在に至っています。

開設当初、会員数は 228 人でスタートし、現在の会員数は 1,400 人を超えるまでに拡大し、事業も 4 億 5 千万円を超える実績を上げるまでに至っております。これもひとえに、会員の皆様、利用者の皆様ならびに大津市をはじめとします関係機関のご理解、ご協力のおかげと存じております。ここに、深く、感謝申し上げます。

さて、日本がこれまで世界でも経験したことのない速さで超高齢社会が進行していくことを受け、国では、超高齢社会へのソフトランディングを図るべく、高齢社会対策基本法を始めとする関係法令を整備施行されています。シルバー人材センターに関しては、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」において、「臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業を希望する高年齢退職者のために、これらの就業の機会を確保し、及び組織的に提供すること。」等の業務を規定し、また、厚生労働省の「高齢社会対策大綱」では、全員参加型社会の実現のための高齢者の雇用・就業対策の推進の一つとして、特に、退職後に、臨時的・短期的又は軽易な就業等を希望する高齢者等に対して、地域の日常生活に密着した仕事を提供する「シルバー人材センター事業」を推進すると規定されています。

当センターの事業は、ここ数年は会員数および事業費とも「伸び悩み」の状況であります。この状況を打開し、超高齢社会にしっかり対応していくために、この中長期経営事業計画を策定いたしました。この計画を着実に実践し、地域で生涯現役社会が構築されるよう努力したいと考える次第です。皆様のご支援、ご理解をお願いいたします。

末筆になりましたが、この計画書策定に当たり、専門的な立場からご指導、ご助言を賜りました座長を務めていただきました城西大学経営学部教授塚本成美様を始め、経営事業計画検討委員会の皆様に、心から感謝申し上げます。

公益社団法人大津市シルバー人材センター 理事長 廣瀬克巳

目次

I	基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	計画策定の趣旨	
2	計画期間	
3	計画策定の基本的な考え方	
4	基本目標の設定	
II	大津市シルバー人材センターの現状と課題・・・・・・・・・・	4
1	高齢社会の現状	
2	大津市シルバー人材センターの現状	
3	先進シルバーの先駆的な取り組み	
4	大津市総合計画	
5	課題	
6	課題解決のための対策	
7	実施する事業メニュー	
III	計画事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
1	実施事業の優先順位	
2	計画期間別の事業進捗管理	
3	手数料改定の基本的な考え方	
IV	中長期経営事業計画推進のための事務組織の的確化・効率化・・・・・・・・	48
1	P D C Aサイクルの徹底	
2	事務組織の省力化・効率化と業務のマニュアル化	
3	研修機会の拡大	
4	会員の参画	
V	計画期間における収支見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48

I 基本方針

1 計画策定の趣旨

内閣府の『平成 29 年版高齢社会白書』では、2016 年 10 月 1 日における 65 歳以上の高齢者人口は、3,459 万人で高齢化率は 27.3%としています。また、生産年齢人口（15 歳から 64 歳）は 1995 年の 8,716 万人のピークからその後減少に転じ、2013 年には 7,901 万人と 1981 年以来 32 年ぶりに 8,000 万人を下回ったと報告しています。

65 歳以上の高齢者人口の今後の推移については、2025 年には 3,677 万人に達し、その後も高齢者人口は増加を続け、2042 年には 3,935 万人のピークを迎えると予想されています。総人口が減少する中で高齢化率が上昇することにより、2065 年には、高齢化率が 38.4%に達して、現役世代 1.3 人で 1 人の高齢者を支える超高齢社会が到来すると推計されています。

一方、平均寿命は 2015 年現在で、男性 80.75 年、女性 86.99 年と対前年を上回り、今後も平均寿命は延びると見込まれ、2065 年には男性 84.95 年、女性は 91.35 年に達するとされています。

このような超高齢社会の進行を受けて、既に国では「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」（以下、「高年齢者雇用安定法」）の改正、「国民年金法」の改正および「健康増進法」の施行等の諸法令の制・改定を行い、新しい社会システムの構築を図っています。

また、「高年齢者等職業安定対策基本方針」では、「生涯現役社会」の実現を目指すとし、「高齢社会対策大綱」においても、「高齢者の捉え方の意識改革」をはじめ、「働き方」や「社会参加」、「地域におけるコミュニティ」や「生活環境の在り方」、「高齢期に向けた備え」等を、「人生 90 年時代」を前提とした仕組みに転換させるとしています。併せて、意欲と能力のある高齢者には社会の支え手となってもらおうと同時に、支えが必要となった時には、周囲の支えにより自立し、人間らしく生活できる尊厳のある超高齢社会を実現させるとしています。

大津市シルバー人材センターは、「高年齢者雇用安定法」を根拠に、高齢者に「臨時的かつ短期的またはその他の軽易な業務」を提供するとともに、ボランティア活動をはじめとするさまざまな社会参加を通じて、高齢者の健康で生きがいのある生活の実現と地域社会の福祉の向上・活性化に貢献していくことを責務としています。これからの超高齢社会を地域でしっかり受け止め、高齢者がいつまでも楽しく、生きがいを持って暮らせるよう、その一助を果たしていくことが大切です。

この中長期経営事業計画は、『人生 100 年！！ 笑って生きる』をコンセプトに、これからの超高齢社会の中で、大津市シルバー人材センターが「自主・自立、共働・共助」を基本に、より一層その責務を果たし、超高齢・地域社会に貢献していけるようその方向を示すために策定するものです。

2 計画期間

2018（平成 30）年～2024（平成 36）年

第 1 期 2018（平成 30）年～2020（平成 32）年

第 2 期 2021（平成 33）年～2023（平成 35）年

第 3 期 2024（平成 36）年

3 計画策定の基本的な考え方

シルバー人材センターは、会員による「自主・自立、共働・共助」を基本理念として発足した組織です。これまで地域に密着した「臨時的かつ短期的またはその他の軽易な業務」を家庭、企業、公共団体などから請負い、会員の希望や能力に応じて、提供してきました。

今後、超高齢社会がますます進展していく中で、数多くの高齢者が、従来の「生きがい就業」に留まらず、地域活性化の担い手として社会に参画されることが求められています。

大津市シルバー人材センターが、基本理念を堅持し、会員一人ひとりの健康の増進を図るとともに、これからの超高齢社会における「地域の多種・多様な要請にきめ細かく柔軟に対応」し、「しっかりお応え」し、「公益社団法人としての実施事業が質的にも充実」し、「量的にも拡大」し、「自立」していくことを計画策定の基本的な考え方としています。

4 基本目標の設定

2018（平成 30）年度から 2024（平成 36）年度までの 7 か年間の目標数値を次のとおりとする。

年度 区分		2018 年度 (平成 30 年度)	2019 年度 (平成 31 年度)	2020 年度 (平成 32 年度)	2021 年度 (平成 33 年度)	2022 年度 (平成 34 年度)	2023 年度 (平成 35 年度)	2024 年度 (平成 36 年度)
会員数	男性	950	967	983	1,019	1,056	1,094	1,134
	女性	540	568	598	641	687	736	788
	全体	1,490	1,535	1,581	1,660	1,743	1,830	1,922
粗入会率		1.3%	1.4%	1.4%	1.4%	1.5%	1.6%	1.6%
受注件数		8,376	8,678	9,034	9,441	9,913	10,409	11,034
契約金額 (事業収益)		454,431,963 (402,439,256)	470,791,514 (414,917,091)	490,093,966 (430,811,203)	512,148,194 (449,249,183)	537,755,604 (471,019,753)	564,643,384 (493,836,646)	598,268,318 (523,029,044)
就業実人員		976	1,027	1,080	1,157	1,241	1,330	1,426
就業率		70.7%	72.2%	73.7%	75.2%	76.8%	78.4%	80.0%
就業延人員		117,120	123,240	129,600	138,840	148,920	159,600	171,120

(注 1) 会員数（全体）について

平成 29 年度見込みの会員数に全国シルバー人材センター事業協会が計画する「第二次会員 100 万人計画」が達成可能となる以下の伸び率（3～5%）を加えて計算した。

- ・ 2018（平成 30）年度 ～ 2020（平成 32）年度 毎年 3%
- ・ 2021（平成 33）年度 ～ 2024（平成 36）年度 毎年 5%

・ 女性会員数については、2024（平成 36）年度（目標年度）の割合を 41%とした。

（会員 1,000 人以上のセンターで女性会員比率が当センターよりも上位の 61 センターの平均値 41%を目標値とした。）

(注 2) 粗入会率について

大津市の 2018（平成 30）年～2024（平成 36）年までの 60 歳以上の人口を「国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」のデータから推計し、粗入会率（会員数÷大津市の 60 歳以上人口）を算出した。

(注 3) 受注件数について

受注件数の推計は、契約金額の伸び率と同様とした。

(注 4) 契約金額について

契約金額は、受託事業収益、介護保険事業収益、派遣契約金額を合算しています。

2024（平成 36）年度（目標年度）の契約金額は、平成 28 年度の実績数値をもとに、2024（平成 36）年度の目標会員数と目標就業率で補正して算定した。

平成 28 年度契約額 465,692,901÷（平成 28 年度会員数 1,493－ブラチナ会員数 105）×就業率（80%に補正）＝419,543（1 人当たりの事業実績額）

419,543×2024（平成 36）年度の目標就業実人員 1,426＝2024（平成 36）年度の契約金額 598,268,318

各年度の契約金額は、計画初年度の 2018（平成 30）年度は 0.6%の伸びを見込み、以降各年度 3.6%～6%の伸びを見込み、2024（平成 36）年度（目標年度）の契約金額に繋いだ。

(注 5) 就業率について

2024（平成 36）年度（目標年度）の就業率を全国平均（81.28%）並みの 80%とした。

計画初年度の 2018（平成 30）年度は 1.4%の伸びを見込み、以降各年度 1.5～1.6%とした。

※就業率の計算方法

就業率＝就業実人員（派遣含）÷（会員数－ブラチナ会員数）

※ブラチナ会員数は平成 28 年度の会員数に対する割合が 7.3%であった為、全ての年度の会員数の 7.3%をブラチナ会員とした。

(注 6) 就業延人員について

各年度の就業実人員に 120 人日（月 10 日）を乗じて算出した。

※120 人日＝1 人×月 10 日×12 ヶ月

(注 7) ブラチナ会員について

ブラチナ会員とは、センター正会員のうち加齢や健康状態等の諸事情によりシルバー事業による就業が困難となった会員のことで、就業以外のセンターで行う事業（定時総会等）や活動（ボランティア等）へ参加する会員のことをいう。

Ⅱ 大津市シルバー人材センターの現状と課題

1 高齢社会の現状

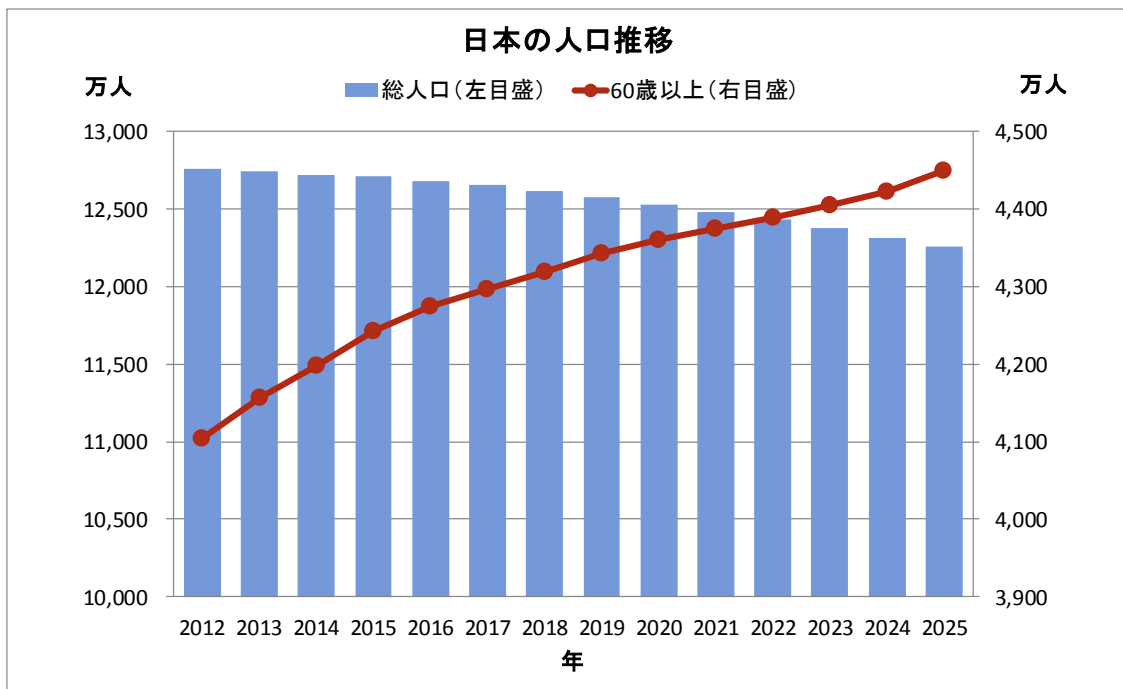
(1) 日本の人口推移

日本の人口は、2008 年から年々減少してきており、2021 年には1 億 2,500 万人を下回ると推測されています。一方、60 歳以上の人口は増加している現状にあり、2023 年には 4,400 万人を超えると見られ、今後も高齢者の割合が増加すると推測されています。【表 1】

人口の減少により労働力が減少していく中、高齢者の割合が増えることから、高齢者の労働力が増々必要とされていきます。

また、『平成 28 年版厚生労働白書』では、年齢に関わりなく、健康で意欲と能力がある限り、働き続けることができる就業機会の確保が重要な課題とされており、シルバー人材センター事業への期待が高まっています。

【表 1】



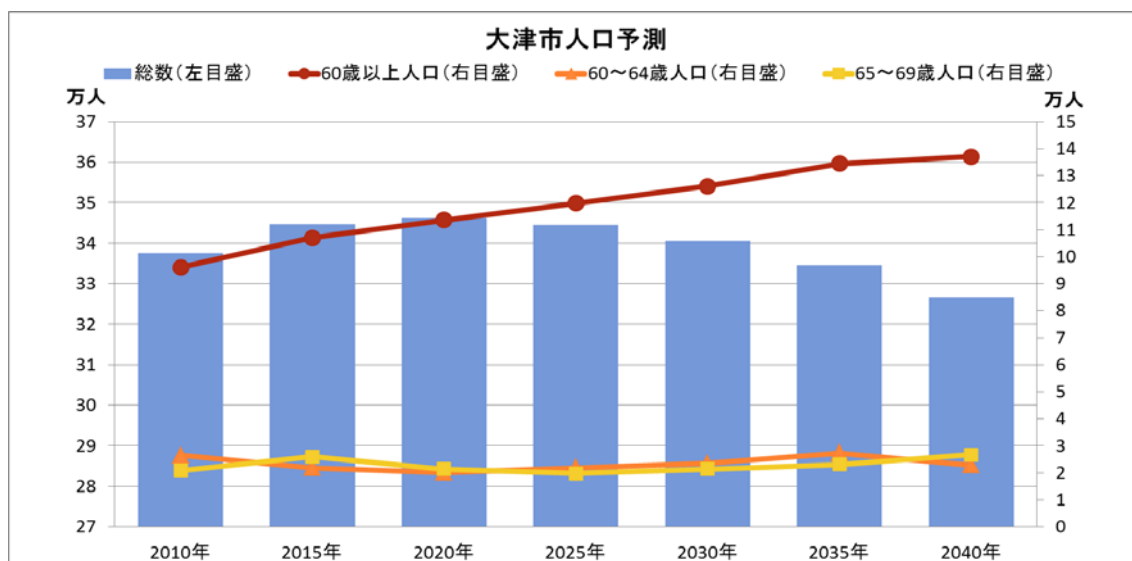
「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）
(http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp_zenkoku2017.asp) をもとに作成

(2) 大津市の人口予測

大津市の人口は、2020 年まで人口が増加し、その後は減少していきますが、60 歳以上の人口については、右肩上がりに増加していき、日本の人口推移と概ね同様の傾向にあります。【表 2】

2035 年の 60～64 歳人口の増加は、この年齢層に団塊世代の子どもが該当する年にあたり、このことが増加原因の一つです。

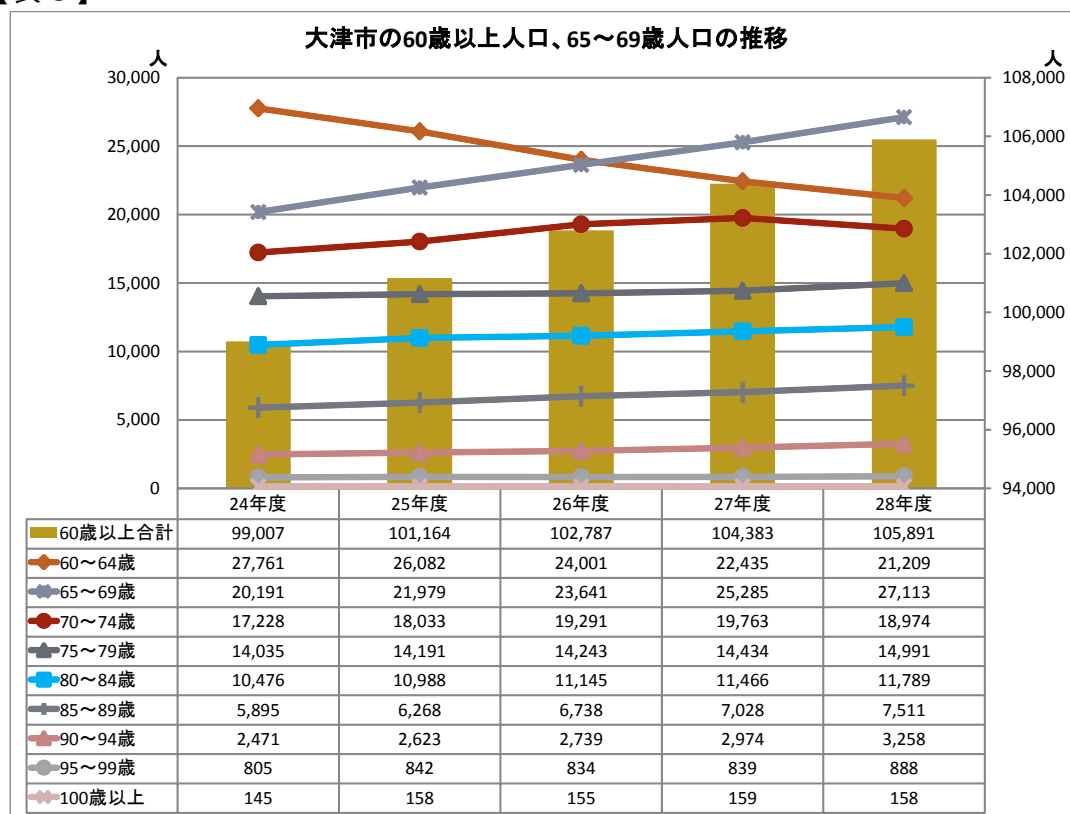
【表 2】



「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）
<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/3kekka/Municipalities.asp> をもとに作成

【表 3】は大津市の過去 5 年の年齢層別の推移を表わしています。全体として 60 歳以上の人口が増加し、特に 65～69 歳の人口について右肩上がりの状況です。また、60～64 歳人口と 65～69 歳人口については、平成 26 年を境に逆転していますが、65～69 歳の年齢層に団塊の世代が含まれたことによるものです。

【表 3】



「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）
<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/3kekka/Municipalities.asp> をもとに作成

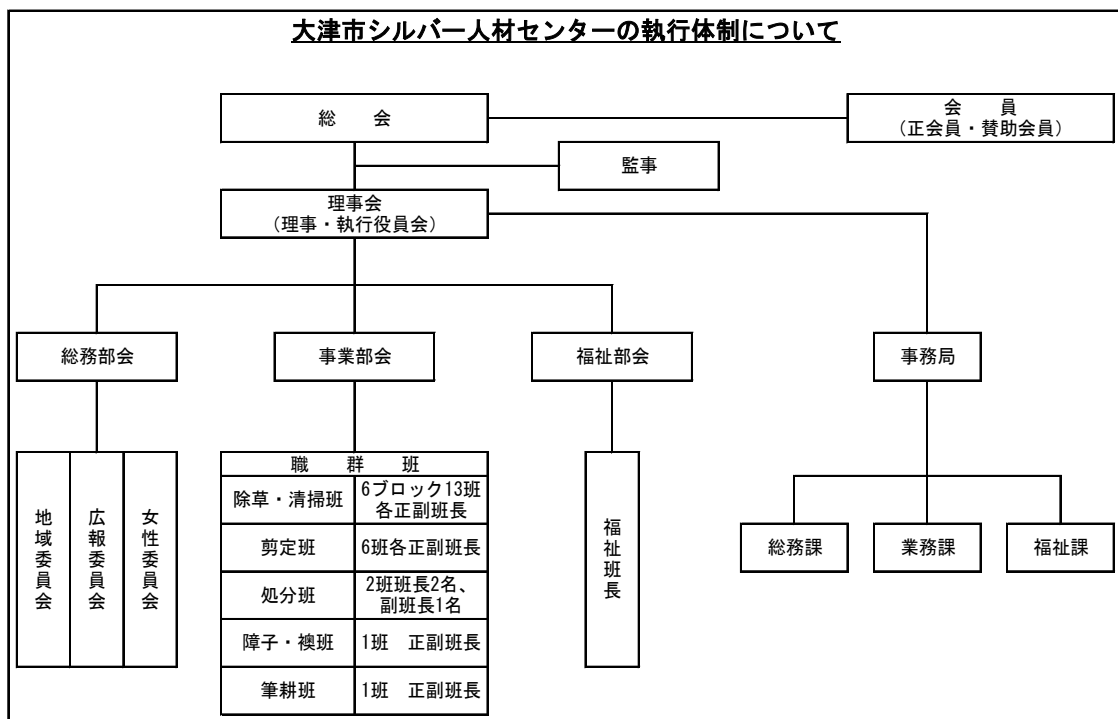
2 大津市シルバー人材センター(以下、「大津市シルバー」)の現状

(1) 大津市シルバーの執行体制について

執行体制については、【表4】のとおりです。総会を最高の決定機関とし、理事会・執行役員会を設置しています。理事会の下に、専門的な事項を協議する総務部会、事業部会および福祉部会が運営されています。総務部会には、さらに専門的に調査検討する地域・広報・女性の3委員会があります。事業部会には、職群班があり、それぞれの業務班の円滑な業務推進が検討されます。

理事会の補助執行部門として事務局があります。事務局は、総務課、業務課、福祉課の3課体制になっています。

【表4】



(2) 「中核市17センター*（人口30～40万都市）」における大津市シルバーの位置

【表5】では、人口30万人以上40万人未満の中核市17シルバー人材センターの規模や事業実績と当センターを比較しています。当センターは、中核市センターの中では、会員数および粗入会率において、ほぼ平均的な数値を示していますが、受託事業額では、平均の85.5%とやや低迷しています。受託事業のうち公共・一般企業等部門が振るわず、逆に、個人・家庭部門が好調で、17センター中、取扱額は1位となっています。個人・家庭部門がかなりの部分を占めることは、景気の影響を受けにくい経営体質と言えます。

また、派遣事業額は中核市センター平均の約8割増しとなっています。

補助金額（市）の額については、中核市センター平均の57.3%で17センタ

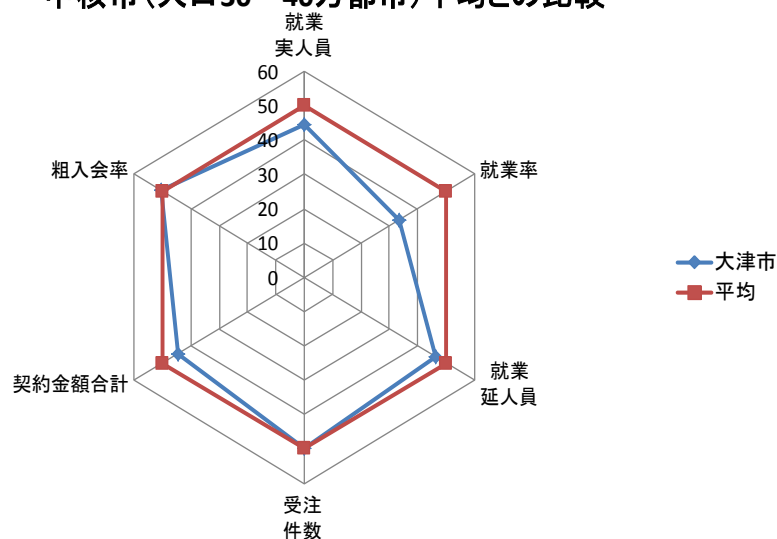
一中、11位となっています。

【表5】

＜中核市比較＞ 大津市シルバー人材センター（個別表）

項 目	順位	数値	平均(17SC)	対平均比
市の人口	9	342,154	346,090	98.9%
市60歳以上人口	13	107,263	112,992	94.9%
会員数	6	1,493	1,341	111.3%
粗入会率	4	1.4%	1.19%	117.3%
受託事業額	11	425,703,893	498,050,015	85.5%
受託事業(内訳): 公共	12	78,681,512	148,259,481	53.1%
受託事業(内訳): 公共割合	13	18.5%	29.8%	62.1%
受託事業(内訳): 一般企業等	14	116,478,747	241,106,307	48.3%
受託事業(内訳): 一般企業等割合	16	27.4%	48.4%	56.5%
受託事業(内訳): 個人・家庭	1	230,543,634	106,886,821	215.7%
受託事業(内訳): 個人・家庭割合	1	54.2%	21.5%	252.3%
受託事業(内訳): 独自事業	12	0	1,797,406	0.0%
受託事業(内訳): 独自事業割合	12	0.0%	0.4%	0.0%
派遣事業額	3	56,470,069	31,106,627	181.5%
事業合計	9	482,173,962	529,156,642	91.1%
補助金額(市)	11	13,088,000	22,852,647	57.3%
補助金額(国)	4	13,088,000	12,045,471	108.7%
補助金額合計	10	26,176,000	34,898,118	75.0%
会員1人あたりの補助金額: 市	15	8,766	20,265.1	43.3%
会員1人あたりの補助金額: 国	12	8,766	10,018.8	87.5%
会員1人あたりの補助金額: 合計	13	17,532	30,283.9	57.9%

中核市(人口30～40万都市)平均との比較



「事業運営状況調査（平成 24～28 年度）」（公益社団法人高槻市シルバー人材センター）をもとに作成

* 中核市とは「人口 20 万人以上の市の申出に基づき政令で指定」される都市を指すが、本事業計画では大津市と同等の人口 30 万人以上 40 万人未満の都市 17 都市のシルバー人材センターを選んで参考にした。

(3) 「県内 17 センター（公益社団）」における大津市シルバーの位置

中核市センター比較と同じように【表6】では県内 17 センター（公益社団）と当センターを比較しています。県内センターの中では、特に大津市シルバーの粗入会率が低いことがわかります。個人・家庭部門の受託事業額、受託事業割合は高いものの一般企業等部門からの受託事業額が低い数値を示しています。下段のレーダーからは、就業延人員は県内センター平均を上回るも

の、就業率では県内センター平均を下回るという就業状況を示しています。

【表5】の中核市センター比較で、平均の約8割増しを示していた派遣事業額も、県内センター比較においては平均額をやや下回る額となっています。

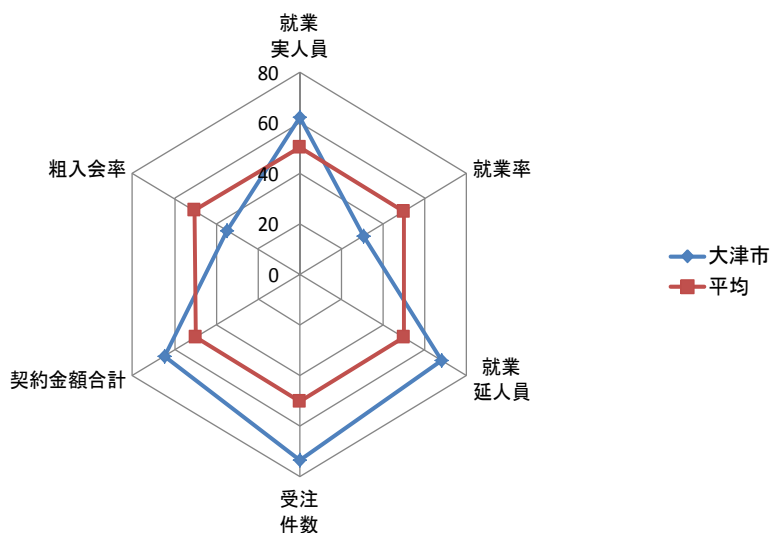
中核市センター平均の57.3%を示した補助金額（市）は、県内センターでは平均の90.8%で、会員数で除した会員1人あたりの補助金額：市は、県内センター平均の37.7%となり、県内17センター中、17位を示しています。

【表6】

＜県内比較＞ 大津市シルバー人材センター（個別表）

項 目	順位	数値	平均(17SC)	対平均比
市の人口	1	342,154	82,434	415.1%
市60歳以上人口	1	107,263	25,326	423.5%
会員数	2	1,493	724	206.2%
粗入会率	17	1.4%	2.9%	48.0%
受託事業額	3	425,703,893	224,130,877	189.9%
受託事業(内訳): 公共	4	78,681,512	48,662,058	161.7%
受託事業(内訳): 公共割合	11	18.5%	21.7%	85.1%
受託事業(内訳): 一般企業等	8	116,478,747	125,471,667	92.8%
受託事業(内訳): 一般企業等割合	17	27.4%	56.0%	48.9%
受託事業(内訳): 個人・家庭	1	230,543,634	48,412,252	476.2%
受託事業(内訳): 個人・家庭割合	1	54.2%	21.6%	250.7%
受託事業(内訳): 独自事業	15	0	1,584,900	0.0%
受託事業(内訳): 独自事業割合	15	0.0%	0.7%	0.0%
派遣事業額	8	56,470,069	58,482,293	96.6%
事業合計	3	482,173,962	282,613,169	170.6%
補助金額(市)	9	13,088,000	14,411,640	90.8%
補助金額(国)	8	13,088,000	13,815,824	94.7%
補助金額合計	8	26,176,000	28,227,464	92.7%
会員1人あたりの補助金額: 市	17	8,766	23,242	37.7%
会員1人あたりの補助金額: 国	17	8,766	22,399	39.1%
会員1人あたりの補助金額: 合計	17	17,532	45,642	38.4%

県内17センター平均との比較



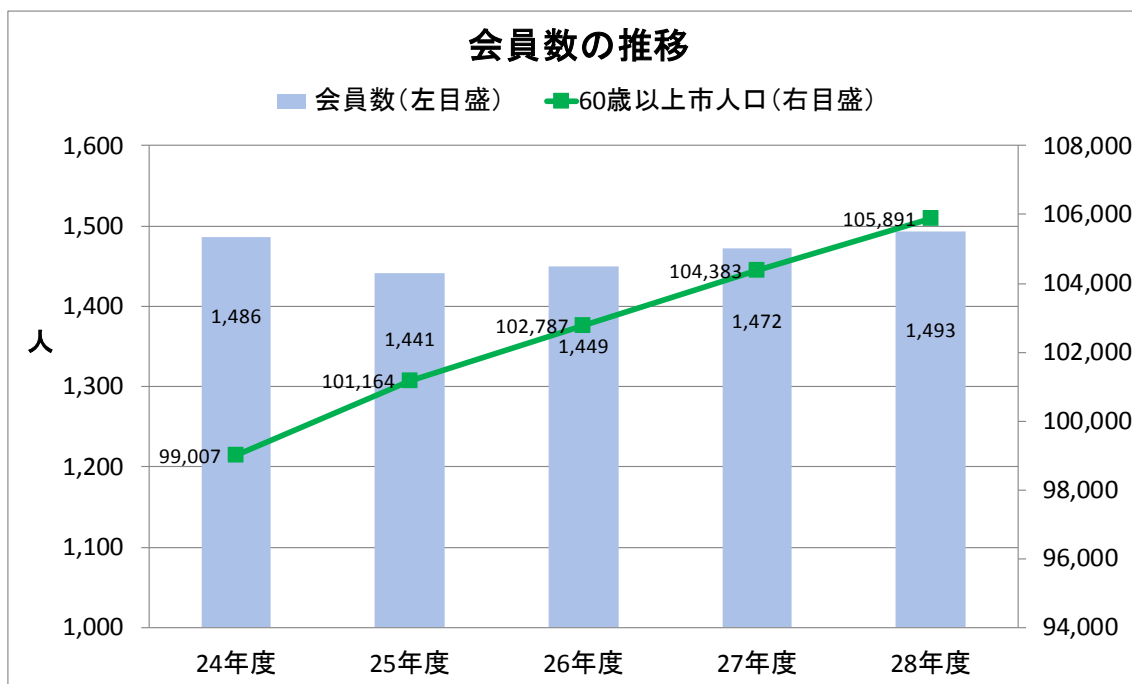
全シ協統計データ（平成28年度）をもとに作成

(4) 大津市シルバーの会員の入退会等の状況

ア 会員数の状況

大津市の60歳以上人口については、毎年右肩上がりに推移していますが、当センターの会員数は人口増に見合う増加が図れていない状況です。

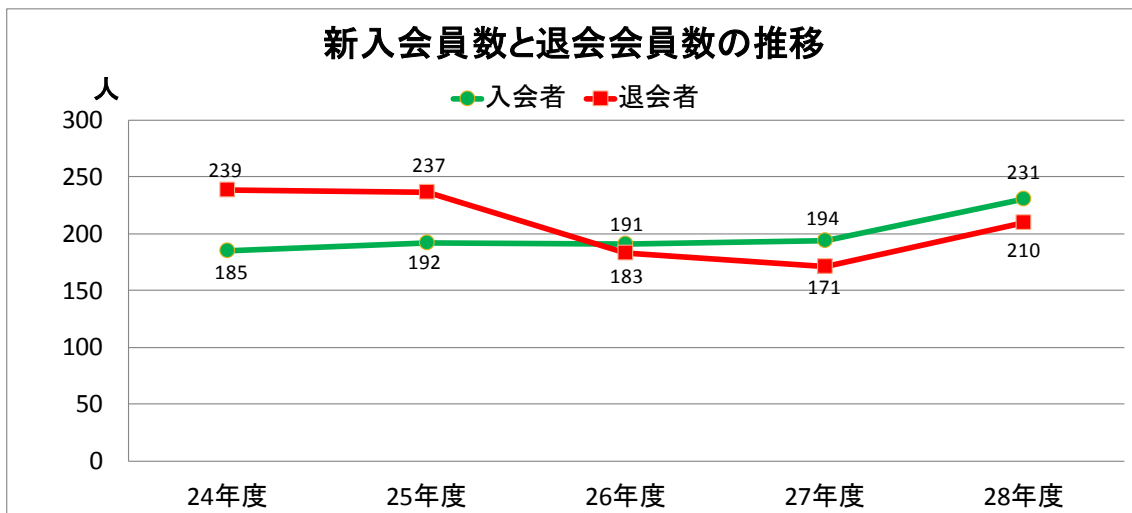
【表7】



「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）
<http://www.ipss.go.jp/pp-shicityson/j/shicityson13/3kekka/Municipalities.asp> をもとに作成

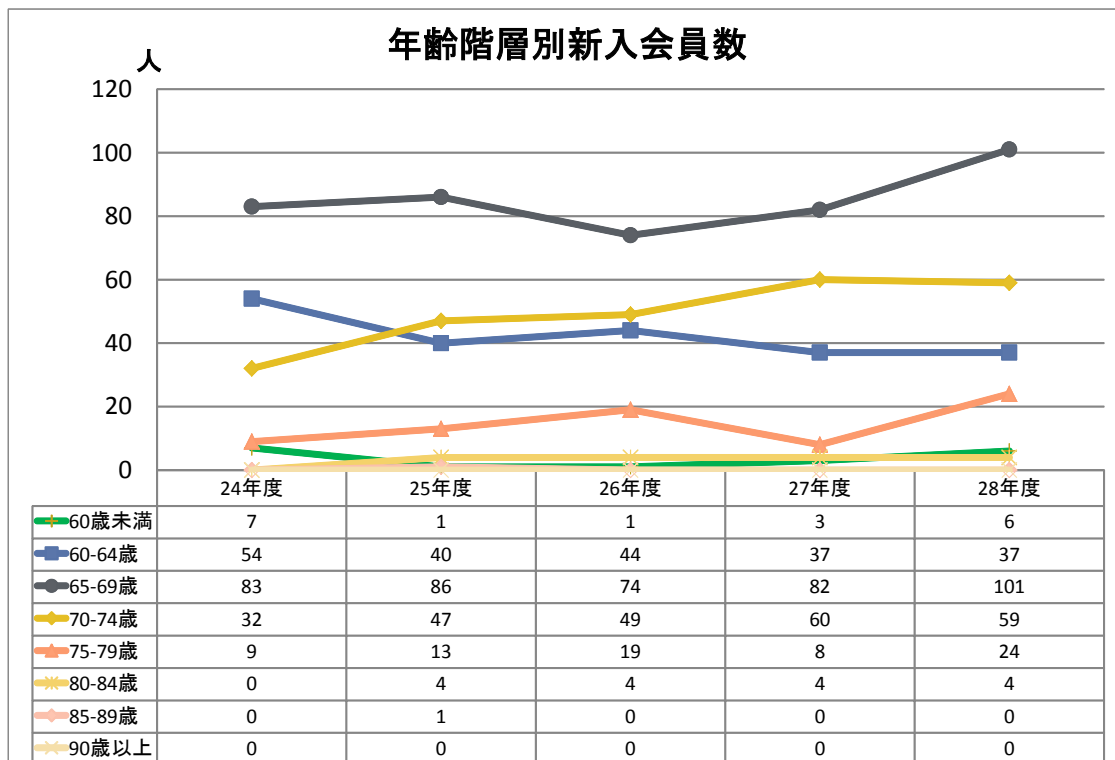
【表8】の新入会員数と退会会員数の推移については、毎年約200人前後の方が入会されています。ここ2年は退会会員数が入会会員数を20名程度上回る状況で推移していますが、粗入会率を上昇させるという状況にはありません。

【表8】



【表 9】年齢階層別新入会員数を見ますと、65～69 歳の方が最も多く入会されます。退職後すぐに入会されるケースが多いものと考えられます。

【表 9】



【表 10】退会会員の状況ですが、65～69 歳の会員が最も多く退会され、在籍年数についても、1～4 年の非常に短い期間に集中しています。未就業会員の退会は約 30%弱で、過去 5 年の男性退会会員数は 651 人で、女性退会会員数は 389 人となっています。

【表 10】

退会会員状況（過去5年間推移・統計）															
退会会員数													（参考）		
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	入会数	±
24	12	127	23	9	8	6	7	9	19	10	3	6	239	186	-53
25	33	116	14	12	-	4	3	28	8	3	7	9	237	192	-45
26	13	110	13	5	2	3	4	16	4	5	2	6	183	192	9
27	18	93	9	6	5	3	1	5	4	4	16	7	171	195	24
28	20	123	11	4	4	2	3	4	5	2	19	13	210	233	23

年齢別								男女別			
年度	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳～	計	年度	男性	女性	計
24	38	66	70	46	15	4	239	24	155	84	239
25	20	57	86	52	22	0	237	25	152	85	237
26	31	61	46	31	11	3	183	26	113	70	183
27	13	57	49	34	15	3	171	27	106	65	171
28	21	71	57	41	18	2	210	28	125	85	210
合計	123	312	308	204	81	12	1,040	合計	651	389	1,040

在籍年数								就業の有無（入会してから退会までの期間）			
年度	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年～	計	年度	実績あり	実績なし	計
24	27	116	51	34	11	0	239	24	172	67	239
25	3	118	50	54	11	1	237	25	176	61	237
26	3	120	33	22	5	0	183	26	123	60	183
27	1	109	28	12	20	1	171	27	119	52	171
28	8	113	45	31	13	0	210	28	146	64	210
合計	42	576	207	153	60	2	1,040	合計	736	304	1,040

イ 就業率の状況

過去5年間の就業率を比較すると、70%台で推移していますが、平成26年の77.1%をピークに減少しています。就業率の改善には至っていない状況です。

【表 11】

就 業 会 員 の 状 況		(単位：人)				
項 目	年 度	24	25	26	27	28
会 員 数	①	1,486	1,441	1,449	1,472	1,493
(内、ﾌﾟﾗﾁﾝ会員数)	②	59	66	86	99	105
就 業 実 人 員	③	965	942	988	920	901
勤務実人員（派遣のみ）	④	52	74	63	76	88
就業・勤務実人員計	⑤ (③+④)	1,017	1,016	1,051	996	989
就業率	⑥ (⑤÷ (①-②))	71.3%	73.9%	77.1%	72.5%	71.3%

(5) 過去5年の収支状況

収入について、受託事業収益は3億2千万円前後で推移していますが、主力事業の除草作業は、26年度に大きく減少し、その後ほぼ横ばいで推移しています。

植木剪定作業は順調で、ここ3年は6千万円程度の受注がありました。屋外清掃作業については、概ね、5千万円前後で推移しています。

次に、労働者派遣事業については、順調に成長している状況であり、今後でも期待できる分野と考えています。

支出は、経常費用が4億4～5千万円で推移していますが、その内の人件費の割合は約21%となっています。

正味財産期末残高は8千万円前後で推移し、良好な収支状況を確保しています。

【表 12】

過去 5 年の収支状況

(単位：千円)

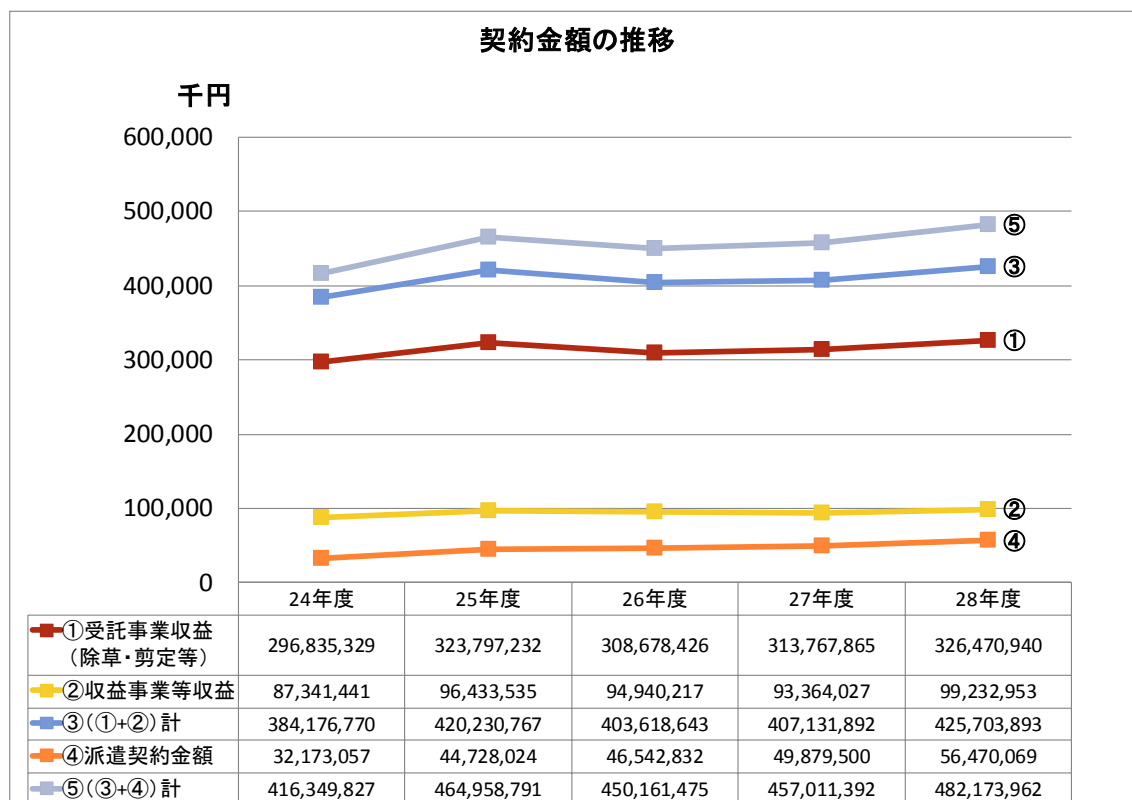
科目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
(1) 経常収益					
受託事業収益	296,835	323,797	308,679	313,769	326,470
除草作業	81,069	86,054	75,104	75,095	76,217
植木・造園工事	46,676	49,156	55,173	58,404	60,605
屋外清掃作業	27,984	51,799	51,993	48,747	49,754
その他	141,106	136,788	126,409	131,523	139,894
労働者派遣事業等受託収益	2,073	3,078	3,203	3,425	3,879
訪問介護保険事業収益	72,615	77,431	74,178	74,799	82,721
通所介護事業収益	13,686	17,705	19,405	17,292	15,183
介護予防日常生活支援総合事業収益	0	0	0	0	0
受取会費	3,128	3,036	3,043	2,988	3,015
受取補助金等	26,734	23,878	30,975	26,984	27,418
受取負担金	3,355	4,383	1,358	1,272	1,297
受取負担金（通所介護）	1,040	1,297	1,358	1,272	1,297
受取サポートオフィス負担金	2,315	3,086	0	0	0
雑収益	380	136	262	648	261
経常収益計	418,806	453,444	441,103	441,177	460,244
(2) 経常費用					
受託事業支出（配分金・材料費）	305,391	323,085	303,318	309,919	318,103
役員報酬	720	720	600	720	720
人件費	77,141	81,861	92,830	97,478	96,393
固定経費	35,498	42,264	46,315	39,497	40,799
経常費用計	418,750	447,930	443,063	447,614	456,015
当期経常外増減額	0	0	-22	1,617	0
法人税、住民税及び事業税	0	0	142	72	590
当期一般正味財産増減額	56	5,514	-2,124	-4,892	3,639
正味財産期末残高	77,455	82,969	80,845	75,953	79,592

※千円単位に四捨五入している為、誤差が出る場合があります。

ア 受注（契約）状況

平成 24 年度は、公共事業全体における予算の縮減等により、受託事業は大きな落ち込みとなり、それらの回復に努めた 5 年間となりました。収益事業については、平成 28 年度には過去最高となる事業収益をあげることができました。また、派遣事業については、事業の成熟度が増していることから年々増加し、その契約金額は、平成 24 年度から約 76% の増加となりました。

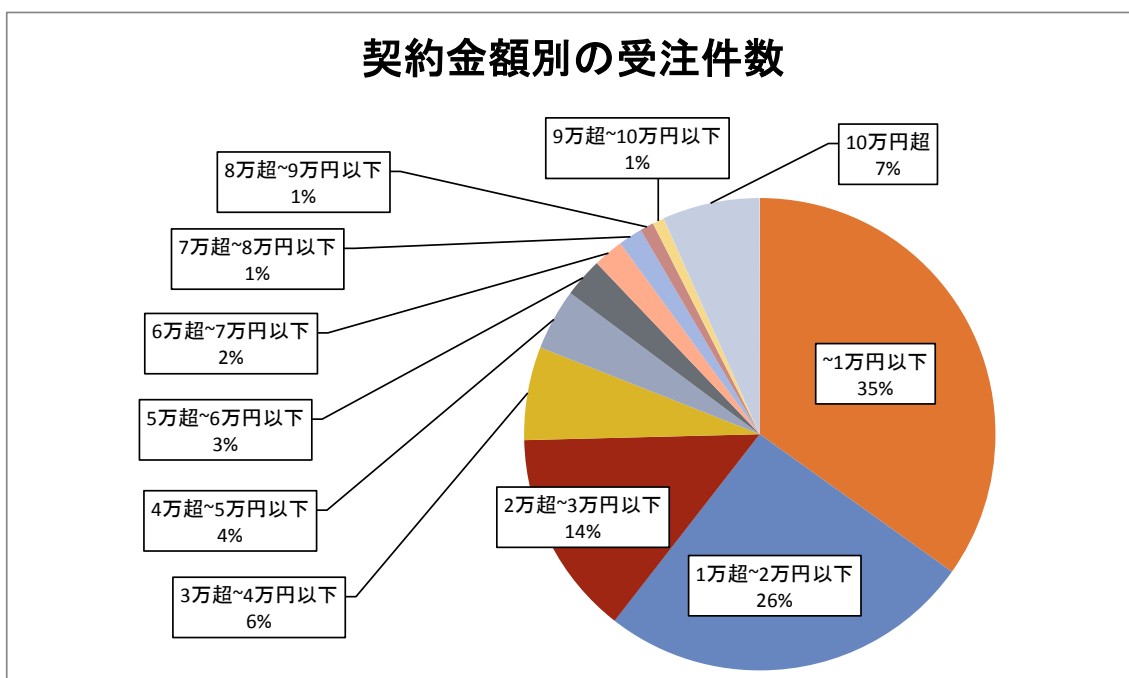
【表 13】



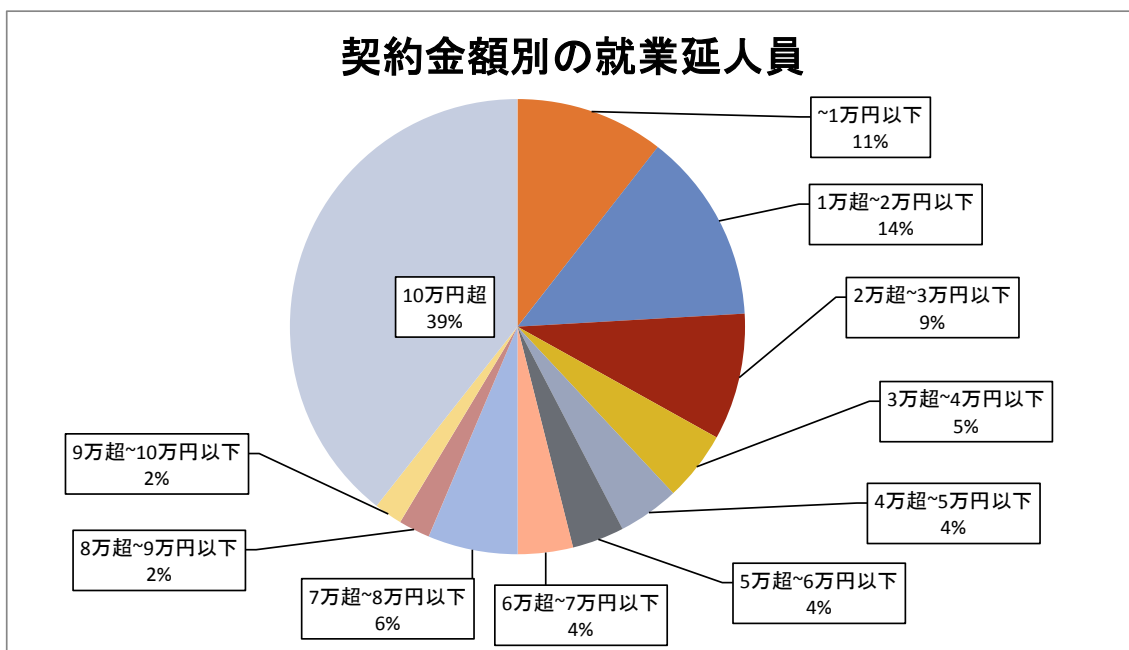
【表 14】 契約金額別の受注件数は、その 61% が 2 万円以下ものとなっています。これを【表 15】 契約金額別の就業延人員で見ると 25% となります。一般家庭からの受注を非常に多くいただいていることから、景気動向の影響に強い反面、1 件当たりの契約金額は低い状況で、採算面からは厳しいものとなっています。

また、1 件当たり 10 万円を超える契約については、就業延人員では 39% を占め、主な契約先は公共の大型受注となっています。このことから、公共の大型受注を伸ばし、一人でも多くの会員の就業機会確保に努力していくことが大切と考えられます。1 件当たり 10 万円を超える契約の受注件数は、全体の 7% となっています。

【表 14】



【表 15】



イ 派遣事業の状況

派遣事業の就業延人員については、平成 24 年度から約 81%の増加、契約金額では約 76%の増加となりました。これは人手不足の企業が増えてきたことと、高齢者派遣への信頼度が増してきているものと考えられます。また、人手不足等に対処するため、シルバー人材センターが行う派遣事業については、派遣期間の撤廃や特定業種における就業時間の延長など、規制緩和が行われ、今後も派遣事業の拡大が期待できます。

【表 16】

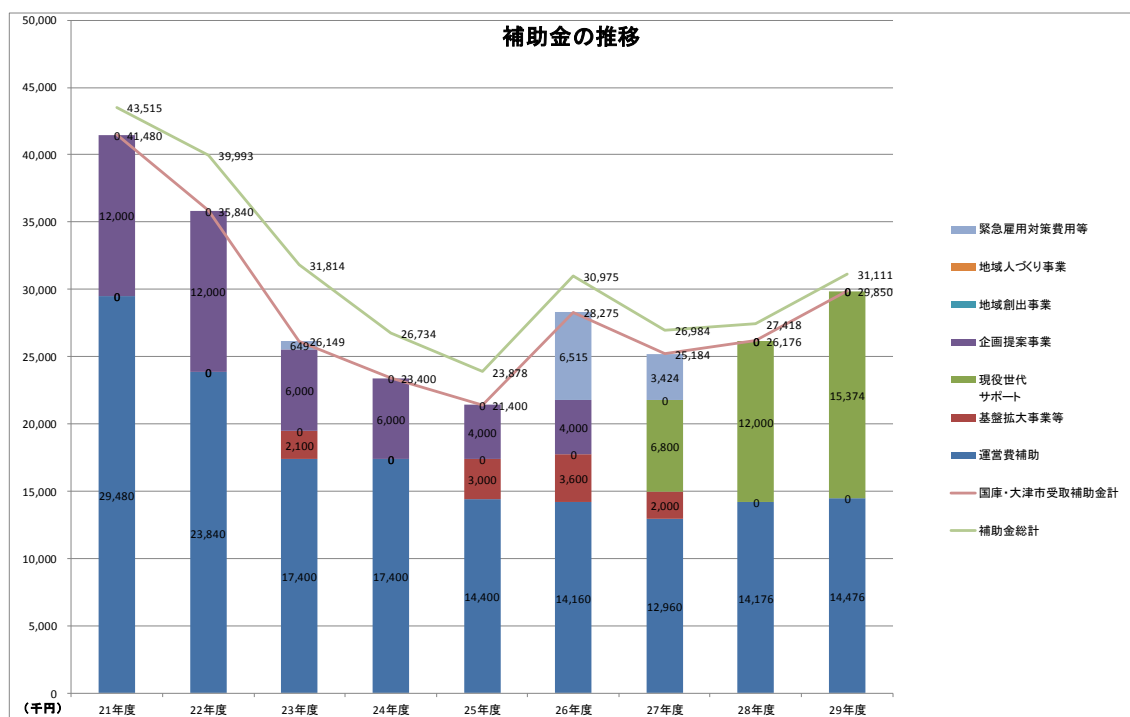
派遣事業実績					
年度 項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
受注件数	66	63	55	50	60
就業延人員	6,852	9,986	10,389	10,818	12,387
契約金額	32,173,057	44,728,024	46,542,832	49,879,500	56,470,069

ウ 補助金の推移

平成 22 年度の事業仕訳から一般会計の補助金額はその後大きく減少していきましたが、平成 26 年度からの特別会計の補助金は年々増額されており、補助金総額は大きく回復しています。当センターでも、特別会計からの現役世代サポート事業の補助金が大きく占めていますが、地域創出事業は現在実施出来ていない状況です。

国が示している現役世代サポート事業の補助基準では、自治体からの補助金の額が限度額となるため、国補助金の満額が受け取れない現状です。

【表 17】

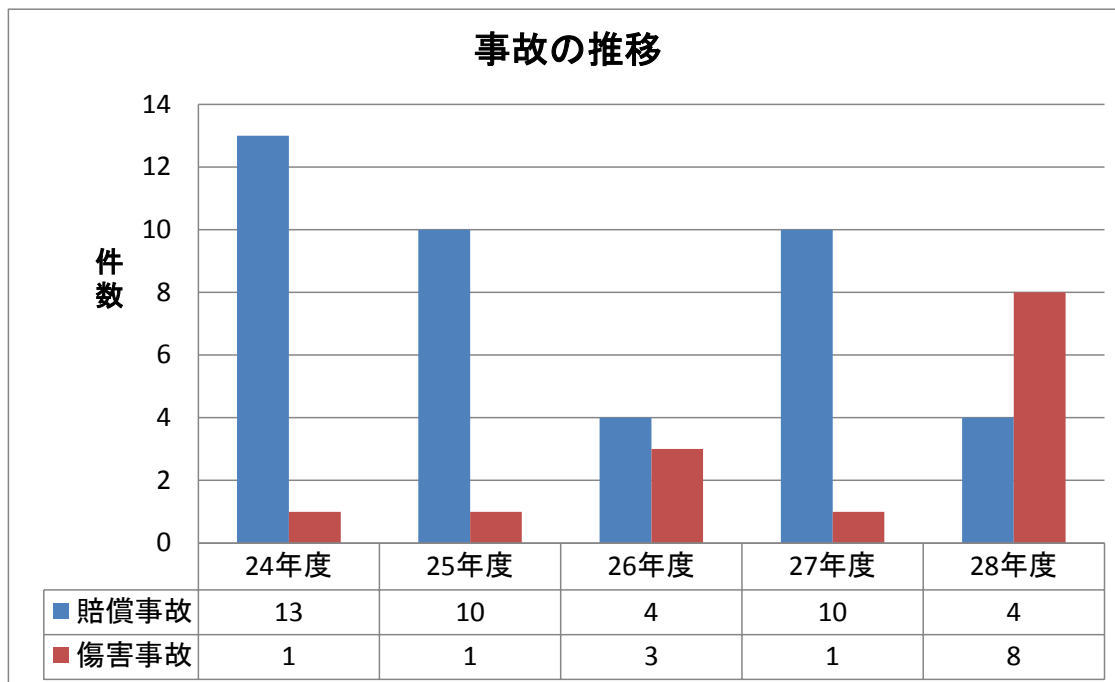


(6) 安全・適正就業の状況

ア 事故の状況

平成 26 年度を除き、10 件を超える事故が発生しています。特に、傷害事故が平成 28 年度 8 件と大幅に増加しています。高齢者の心身の健康を維持することを目的の一つとしているシルバー事業では、あってはならないことです。

【表 18】



イ 安全・適正就業の啓発

事故を無くし安全・適正就業を確保していくために、安全に就業する知識を習得してもらうための講習会を開催していくとともに、機会あるごとに意識喚起を行うことが大切です。

(7) 営業活動の状況

【表 19】は過去5年の主な営業活動の状況です。

先進シルバーと比較して、年間を通した質的・量的な営業活動が計画的に、実施されていない現状です。

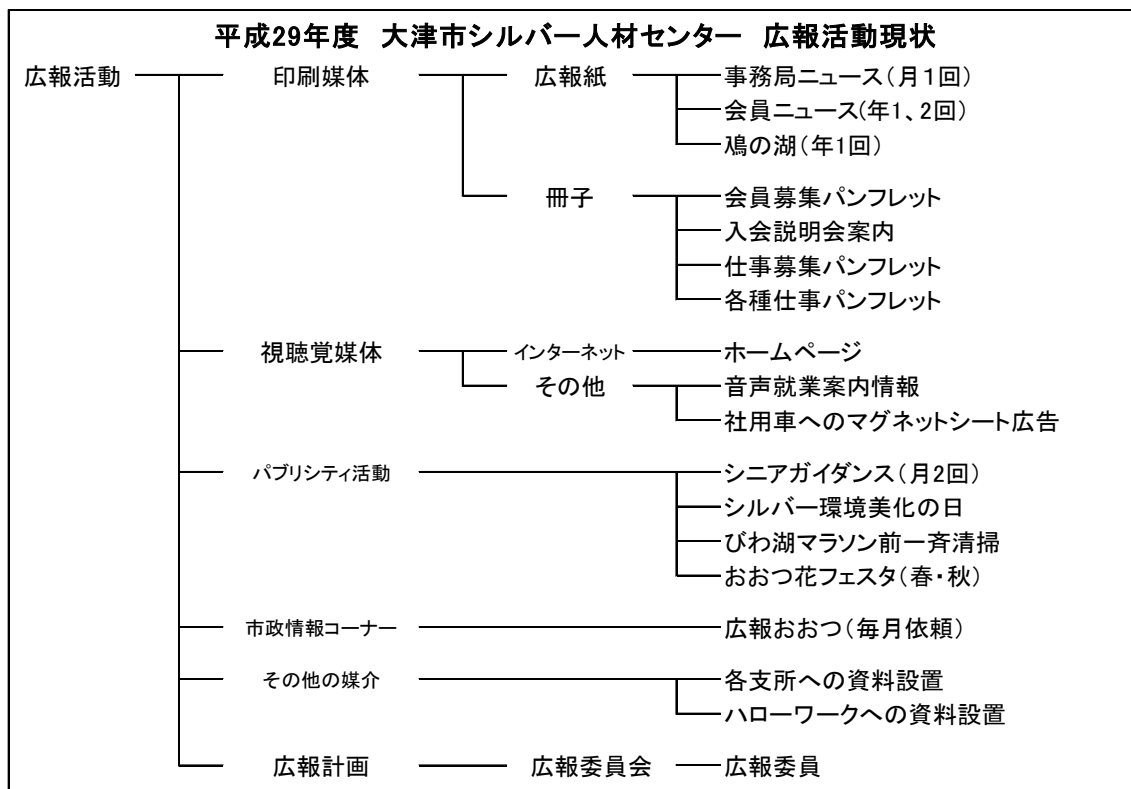
【表 19】

年度	営業先		拡大目的事業	配布枚数	訪問箇所数
平成24年度	居宅介護支援事業所	大津市介護保険等情報提供会 (ケアマネージャー説明会)	生活支援サービス くらしの便利屋 訪問介護サービス	200	7
	地域包括支援センター	各地域包括支援センター	地域支援事業		
	植木剪定次年度案内		植木剪定	1790	
	大掃除次年度案内		生活支援(大掃除)	122	
平成25年度	居宅介護支援事業所	大津市介護保険等情報提供会 (ケアマネージャー説明会)	生活支援サービス くらしの便利屋 訪問介護サービス	200	
	植木剪定次年度案内		植木剪定	1927	
	大掃除次年度案内		生活支援(大掃除)	103	
平成26年度	居宅介護支援事業所	大津市介護保険等情報提供会 (ケアマネージャー説明会)	生活支援サービス くらしの便利屋 訪問介護サービス	200	
	植木剪定次年度案内		植木剪定	1990	
	大掃除次年度案内		生活支援(大掃除)	103	
平成27年度	居宅介護支援事業所	大津市介護保険等情報提供会 (ケアマネージャー説明会)	生活支援サービス くらしの便利屋 訪問介護サービス	200	4
	小売業(受託事業)	平和堂	派遣事業 荷受、レジ、カート等		
	保育園(受託事業)	松の実保育園他(民間保育園)	保育補助等		
	介護施設(受託事業)	ここあ石山他	施設内清掃等		58
	病院(受託事業)	琵琶湖病院他	施設内清掃等		6
	居宅介護支援事業所(受託事業)	まごころ滋賀他	訪問介護サービス等		3
	不動産業(受託事業)	UR都市機構	大掃除等		3
		アマノマネジメントサービス	駐車場の管理、清掃等		1
	その他(受託事業)	馬場荒堀墓地	墓掃除		1
	行政、公社(受託事業)	大津市教育委員会他	除草、清掃等		1
	植木剪定次年度案内		植木剪定	2062	2
	大掃除次年度案内		生活支援(大掃除)	90	
平成28年度	居宅介護支援事業所	大津市介護保険等情報提供会 (ケアマネージャー説明会)	生活支援サービス くらしの便利屋 訪問介護サービス	200	
	植木剪定次年度案内		植木剪定	2112	
	大掃除次年度案内		生活支援(大掃除)	132	

(8) 広報の状況

【表 20】に平成 29 年度の広報活動の現状を取りまとめています。先進シルバーと比較して、広報活動も質的・量的に不足している現状です。

【表 20】



(9) 地域ボランティアの実施状況

平成 22 年度に発足した地域委員会（大津市内 14 地域）を中心に活動し、平成 28 年度は【表 21】のとおり清掃活動を中心にボランティア活動が活発に行われました。また、清掃活動以外にも、スクールガードや J R 駅への置き傘の提供を実施しています。

当センターの 28 年度のボランティア割合（延人員）は 1.47%であり、全国平均 0.49%を大きく上回り、ボランティア活動への高い参加率を示すとともに、地域社会と大津市シルバーを繋ぐ重要な役割を担っています。

【表 21】

平成28年度ボランティア活動実施状況

No	①活動の種類	②活動の内容	③参加実人員 (人)	④参加延人員 (人日)
1	769:その他の清掃の職業	市内琵琶湖岸等の清掃等	218	218
2	769:その他の清掃の職業	びわ湖毎日マラソンコース沿道の清掃	154	154
3	763:道路・公園清掃員	公園内シバザクラ植栽管理による緑化活動等	262	1,224
	計		634	1,596

(10) 会員の意識調査

【表 22】は、平成 29 年度に実施した会員アンケートの結果です。会員が就業において最も重視するものを、「5. 就業について A. 「最も重視」するもの (23 頁)」で尋ねています。「就業内容」、「就業日数、就業時間」、「就業場所」の順で高い率を示しています。「配分金 (賃金)」を重視するは、全体の 9 % で第 4 位となっています。

会員が最も重視する「就業内容」に関して、「5. 就業について D. どのような職種を希望しますか (24 頁)」で、希望する職種について尋ねています。「植木剪定、除草、清掃等」の屋外作業が 39% を占めています。次いで「家事援助、ホームヘルパー」が 19% を占めています。

「マンション管理、駐車場管理」と「一般事務」を合わせると 27% の高率となりますが、このような就業機会は受注件数が少なく、「5. 就業について F. 0 日 (就業していない) の理由 (24 頁)」においても、「希望する仕事がない」が 35% に昇ることから、希望される職種が提供できていない可能性があります。

2 番目に重視される「就業日数、就業時間」については、「5. 就業について B. 1 ヶ月の内、どのくらい就業できますか (23 頁)」で、1 ヶ月の内、「10 日程度」が 40% を占め、「5. 就業について C. 1 日の内、どのくらい就業できますか (23 頁)」では、「4 時間以上～5 時間未満」と「5 時間以上～6 時間未満」を合わせると 40% を占めています。

「5. 就業について A. 「最も重視」するもの (23 頁)」で、「配分金 (賃金)」重視は 4 位の 9 % を占めていましたが、大津市シルバーが、仮に、会員の希望する就業を満たすことができれば、希望する 1 日の就業時間「4 時間以上～6 時間未満」に、希望する 1 ヶ月の就業日数「10 日程度」を乗じると、1 ヶ月あたりの就業時間は 40 時間～60 時間となります。これらに大津市シルバーが基本に考える時間単価である 820 円を乗じると、会員一人あたりの 1 ヶ月の配分金 (賃金) は、32,800 円～49,200 円程度となります。

「7. 大津市シルバー人材センターについて B. 期待することはありますか (26 頁)」でも、74% が「就業機会の提供」に期待を寄せており、就業メニューを数多く用意し、ミスマッチを解消していく必要があります。

【表 22】

会員アンケートの結果について		
会員アンケートの実施		
実施期間：平成29年8月14日～31日		
対象者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
1,407	624	44
注) 対象者は平成29年8月1日現在の全会員としました		
アンケート内容		
1. 性別について		
回答者の構成比はセンター男女構成比と同等であった		
2. 年齢について		
75歳以上の会員からの回答が多かった。これはセンターの平均年齢72.9歳を上回っている。		
3. 入会年数について		
4年以上6年未満の在籍年数の会員からの回答が多かった。これはセンターの構成比よりも高い。		
4. インターネットの利用状況について		
半数以上の会員がインターネットを利用している。		
5. 就業について		
A. 「最も重視」するもの		
①就業内容 ②就業日数、時間 ③就業場所を重視しており、配分金について重視すると回答した会員は少数と言える。これは前回のアンケート結果である「近くで気楽な仕事」にもリンクする。		
B. 1ヶ月に就業できる日数		
半数の会員が月10日程度の就業を希望している。		
C. 1日に就業できる時間数		
2時間以上6時間未満の間で就業を希望する会員が均等におり、就業時間の希望は多様である。		
D. 希望する職種		
既存職種では植木剪定等作業を希望する会員が多い。その他希望する職種としては、パソコン関係、農業関係、語学関係を希望する会員が複数あった。		
E. 現在の1ヶ月の就業日数		
就業していないと回答した会員が17%を占めた。就業していない理由は「希望する仕事がない」が最も多く36%を占めた。		
F. 現在の就業に満足しているか		
就業している会員の79%はほぼ満足している。不満と回答した会員は就業日数が減ったこと、少ないこと、配分金が安いことを不満に感じている。		
6. 行事等について		
A. 地域委員会の活動に参加している		
たまにを含めて64%の会員がボランティア等の活動に参加していると意識している。		
B. センター行事に参加しているか		
たまにを含めて66%の会員が何らかの行事に参加していると意識している。		
7. 大津市シルバー人材センターについて		
A. センターの魅力		
就業できることを魅力と感じる会員が殆どではあるが、定年がなく働けること、働くことが健康づくりになっていること、時間を有効に活用できることを魅力とする会員も多い。また、その他では情報交換の場となっていること、人の役に立っていること、社会参加を感じることができるとの回答があった。		
B. センターに期待すること		
高齢者同士の情報交換、情報発信場所として会員が集える場所を創ってもらいたい。親睦旅行やスポーツ大会を実施してもらいたい。		
8. ご意見、ご要望		
664件のご意見を頂戴し、分類すると、総括、理事会、事務局、就業、適正就業、就業開拓、配分金、入会、班・委員会、ボランティア、その他について、ご意見を頂きました。		

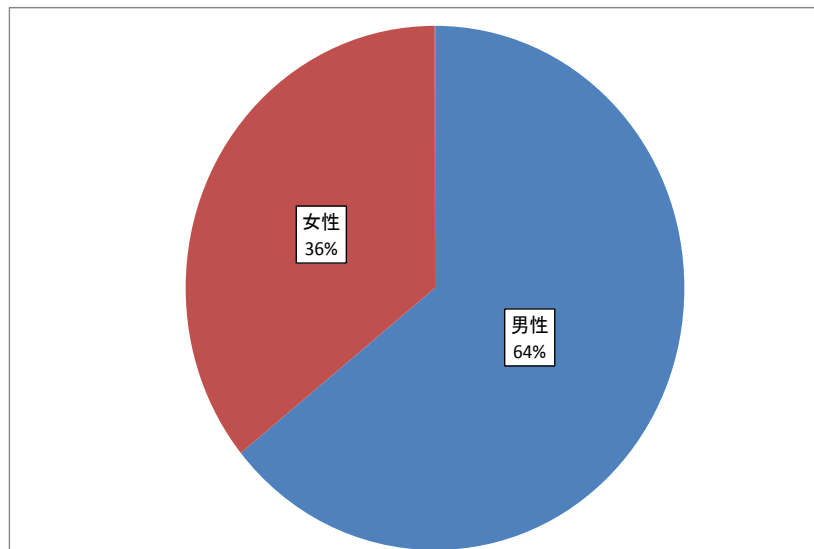
アンケート集計表

(29.9.12時点)

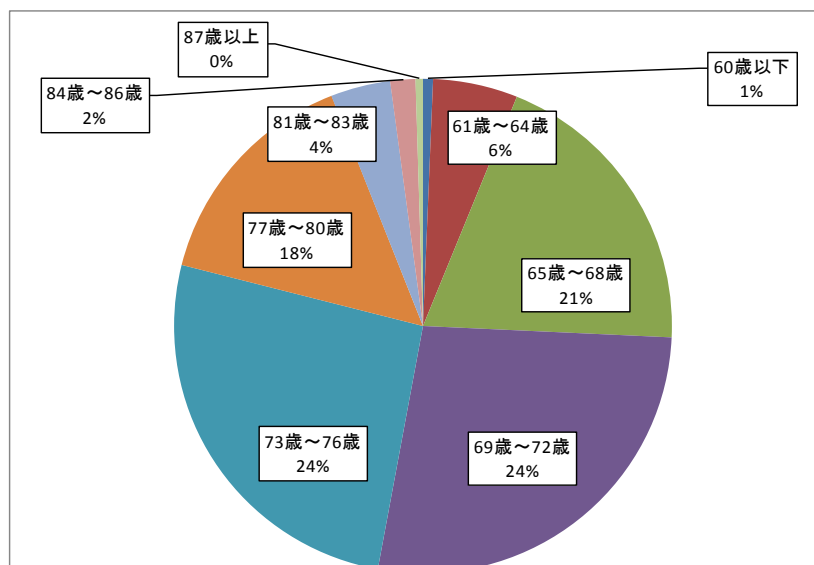
会 員 数	1,407
回答者数	624
回 答 率	44.3%

※端数により一部グラフの合計が100%とならない場合があります

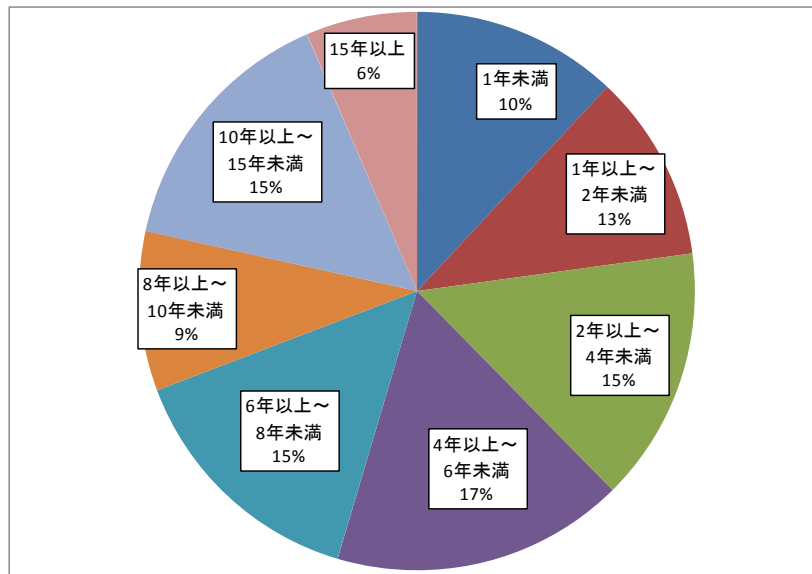
1. 性別について



2. 年齢について

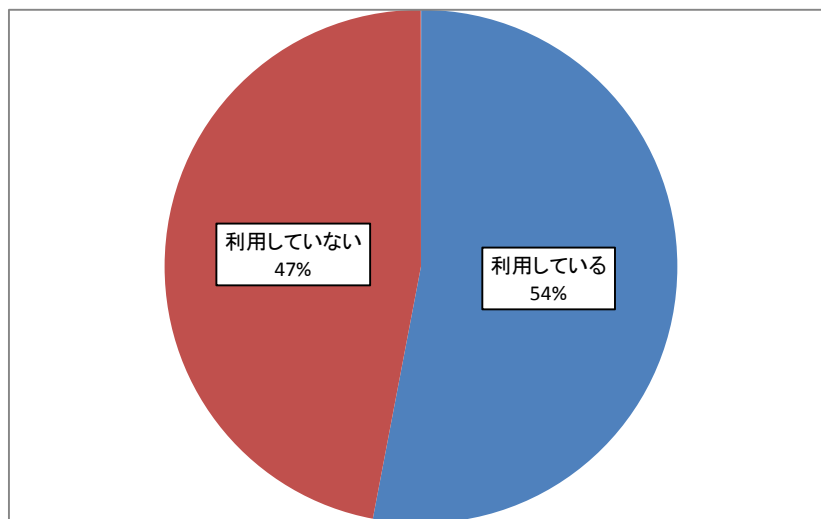


3. 入会年数について

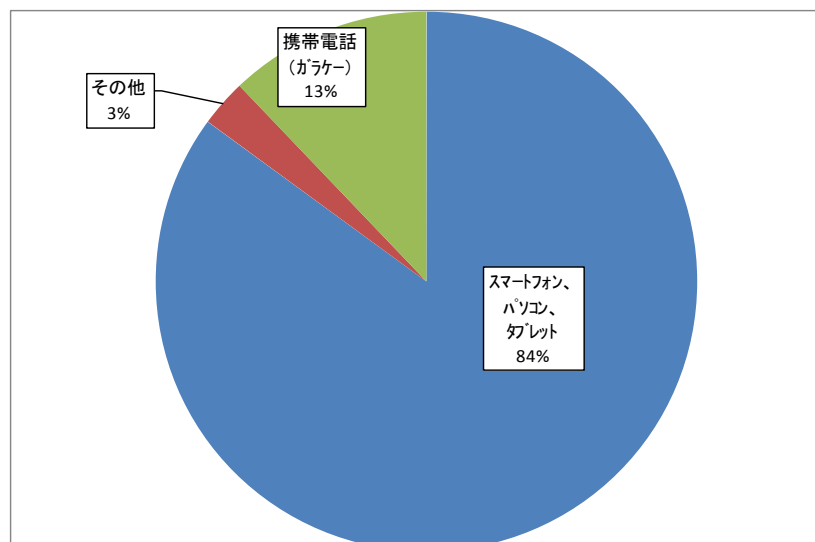


4. インターネットの利用状況について

A. インターネットを普段から利用していますか

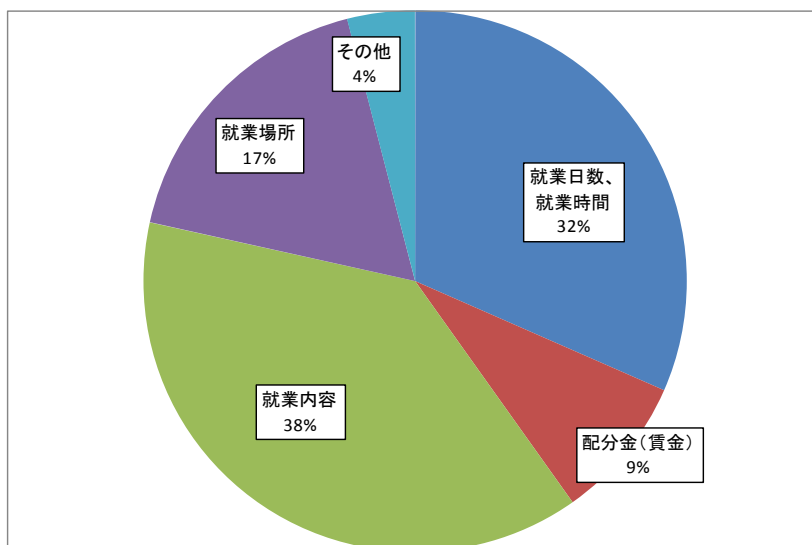


B. 利用しているものの内、インターネットを利用している端末

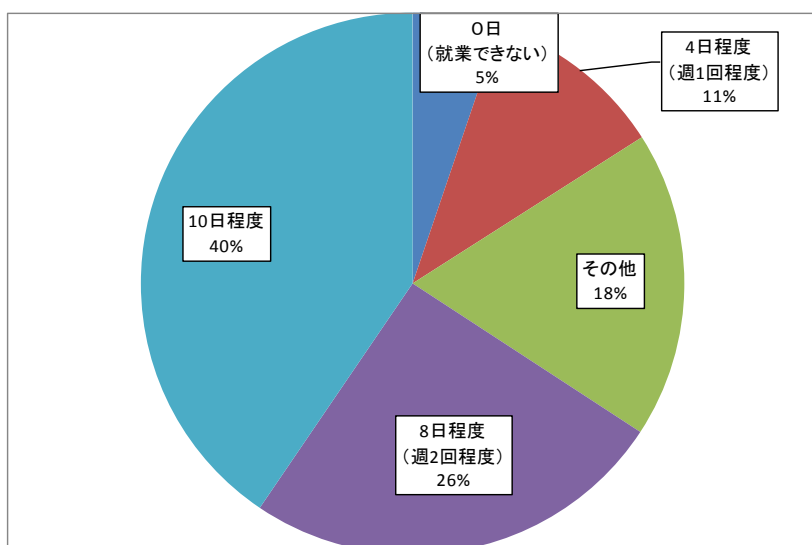


5. 就業について

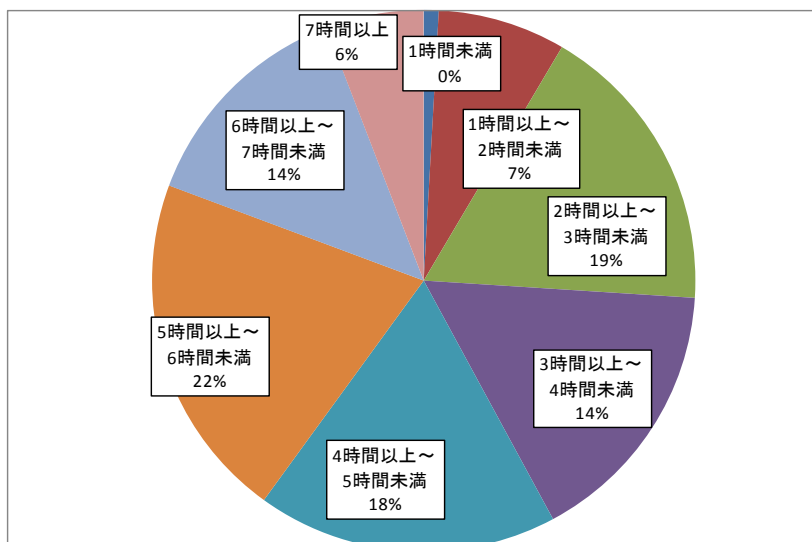
A. 「最も重視」するもの



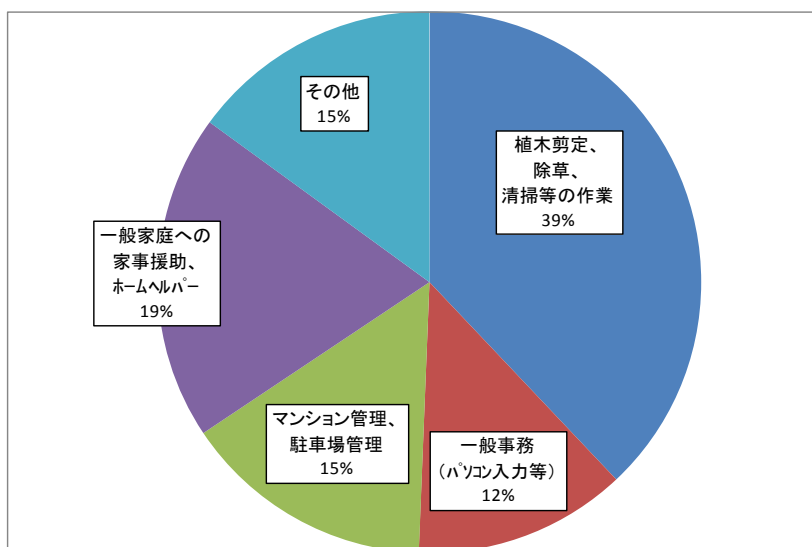
B. 1ヶ月の内、どのくらい就業できますか



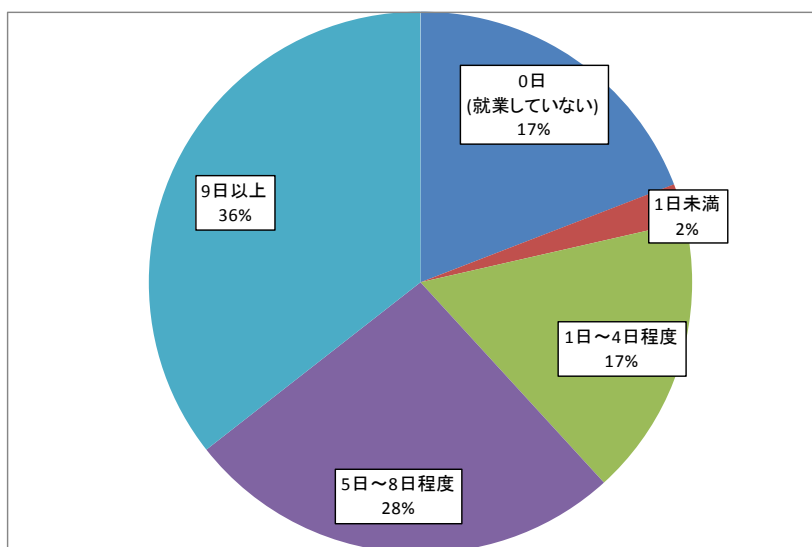
C. 1日の内、どのくらい就業できますか



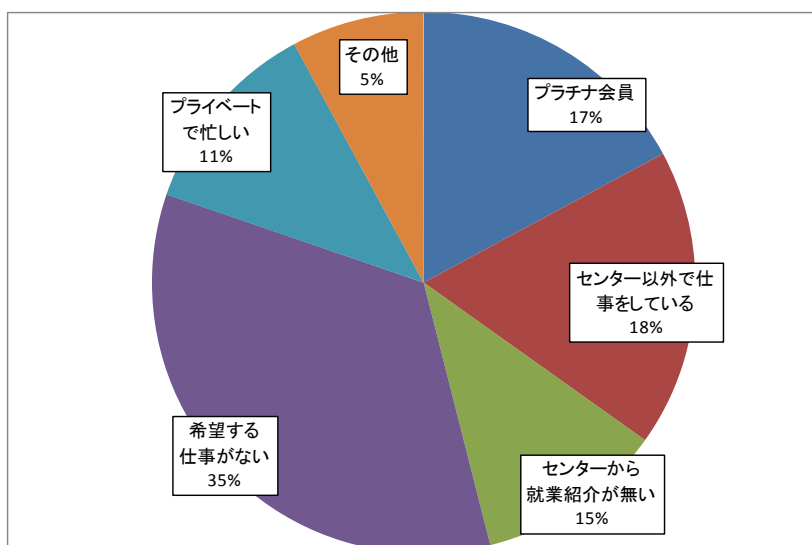
D. どのような職種を希望しますか



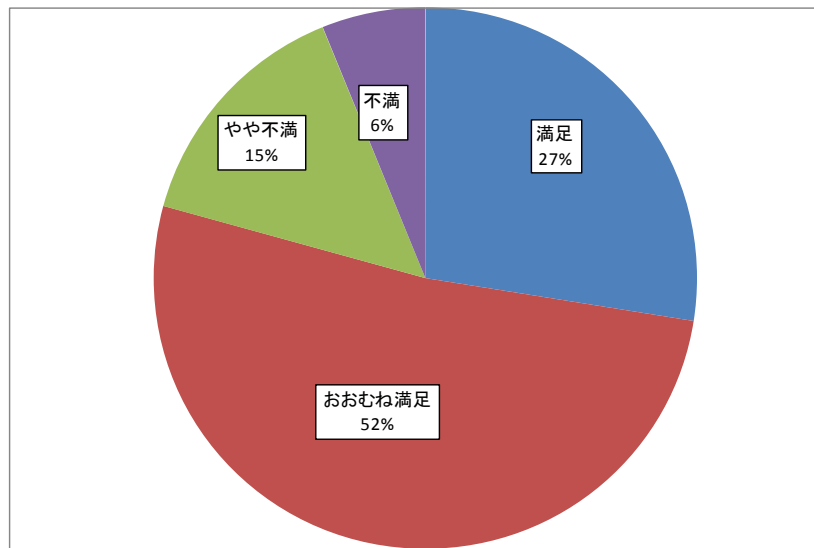
E. 現在の就業は、1ヶ月当たり何日程度ですか



F. 0日（就業していない）の理由 ※複数回答可

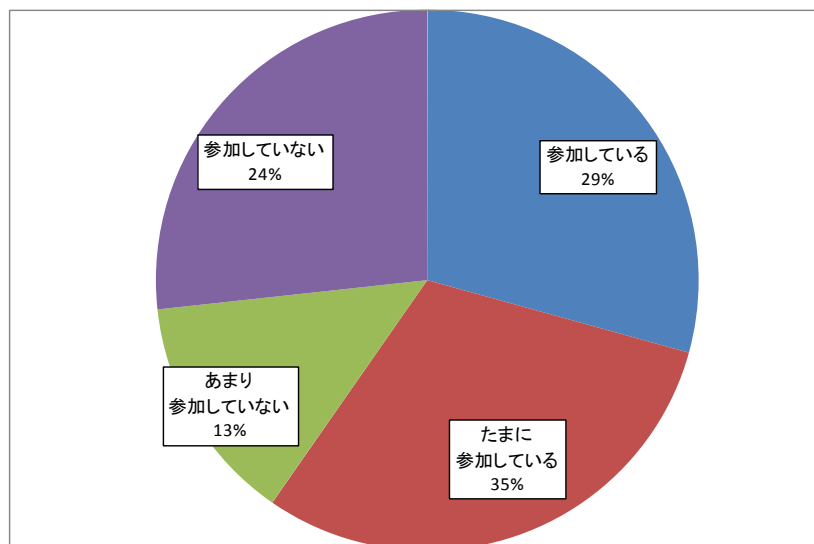


G. 現在の就業（仕事）内容に満足していますか

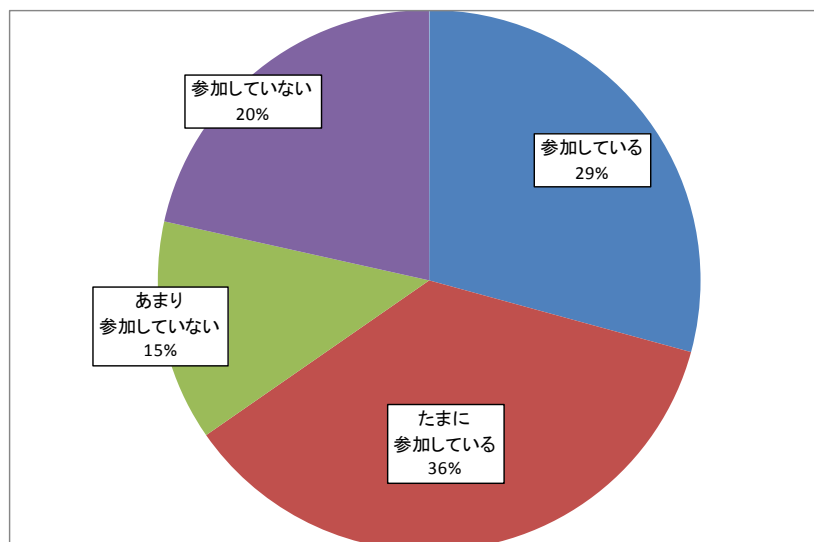


6. 行事等について

A. 地域委員会の活動(地域総会、ボランティア、親睦会等)に参加していますか

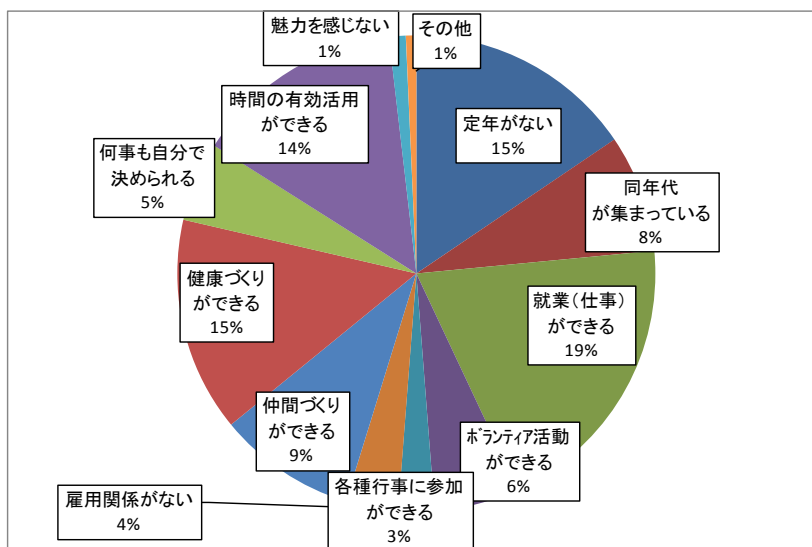


B. センターの各種行事(定時総会、安全大会、講習会等)に参加していますか

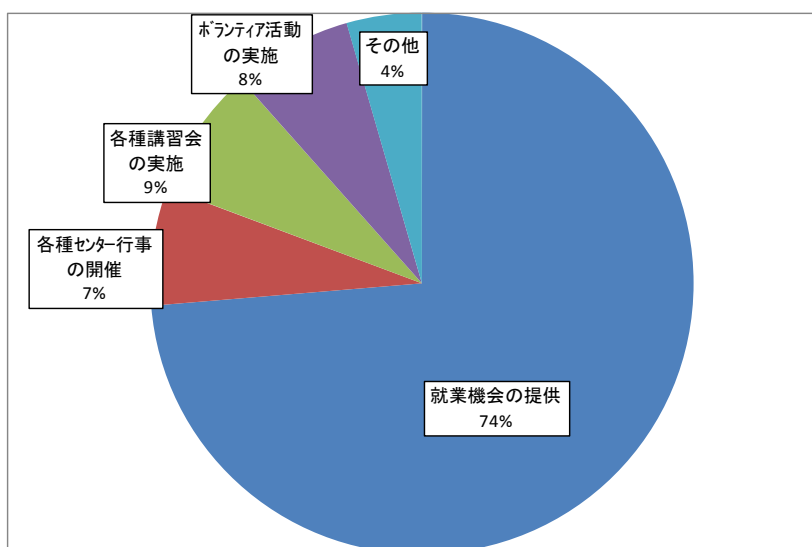


7. 大津市シルバー人材センターについて

A. どのような所に魅力を感じていますか ※複数回答可



B. 期待することは何ですか



会員意見の概要(主な意見)

総括について		2
	社会からの要請を受けて、シルバー人材センターの役割はますます重要となる。	
	中期計画の抜本的改革が必要である。	
理事会について		4
	理事会での革新的な改革が急がれる。	
	理事会機能の強化を求める。	
	理事が多い。	
事務局について		35
	事務局職員が現場へ赴き現場を確認をする回数を増やしてもらいたい。見積りへの立会を望む。	
	会員が使える駐車場のある所への事務所移転を望む。	
	月1回の「就業案内情報」を楽しみにしている。有難い。	
就業について		172
	健康延伸、認知症予防に繋がっていて有難い。	
	高齢期になっても働く機会を提供してくださるシステムが有難い。	
	就業日数が少ない。減っている。	
適正就業について		13
	公平、平等な就業機会の提供を求める。	
	会員個々の就業日数に偏りがある。平均化する必要がある。	
就業開拓について		44
	就業機会の開拓、拡大、営業活動の充実を望む。	
	仕事が少なくなってきた。公共の仕事が少なくなってきた。	
	体力の続く限り、80代でも仕事がしたい。職種の多様化を望む。	
配分金について		24
	配分金値上げの実施。	
	配分金、時給に不満。	
入会について		2
	入会者の伸び悩みはシルバーからの情報発信、PRの不足。	
	地域委員会活動の活性化とPRが必要。	
班、委員会について		10
	班長、委員長の若返り、見直しが必要。	
	作業班と地域委員会の連携ができていない。	
ボランティアについて		278
	ボランティア活動の頻度が多すぎる。	
	ボランティア活動への取り組みを強化したい。	
その他		80
	いつも親切、丁寧。きめ細かく、誠意ある対応で安心して働いている。感謝、感心しています。	
	会員交流、事務局との交流を兼ねたバス旅行の復活、食事会、スポーツ企画などがあると嬉しい。	
	健康延伸に関する情報提供、取組みの強化を望む。	

3 先進シルバーの先駆的な取り組み

県外の先進シルバーへ訪問し、状況調査等を行いました。その先進シルバーとの比較を【表 23】にまとめています。人口で比較すると、当センターが一番人口は多いですが、粗入会率や平成 28 年度事業実績は一番低い状況です。先進シルバーの取り組みは多様かつ多彩です。【表 24】はその取り組み状況を取りまとめました。特に、会員数の拡大における退会抑制策は、当センターが実施していない内容であり、大いに参考とすべき内容です。受注拡大では、活発な営業の実施や会員自らが企画し、実施する企画事業など大いに参考になる事業が数多くありました。また、高齢者と一口で語らず、生涯現役を実践していくため、会員年齢に応じた段階的な就業の紹介といった超高齢社会にマッチする先駆的な取り組みがありました。

【表 23】

先進シルバー状況調査結果表

区分	〇〇市 シルバー人材 センター	●●市 シルバー人材 センター	□□市 シルバー人材 センター	■市 シルバー人材 センター	△△市 シルバー人材 センター	▲市 シルバー人材 センター	先進6市平均	大津市 シルバー人材 センター
人口 A	265,290	165,081	196,632	124,299	264,906	94,740	185,158	342,154
人口(60歳以上) B	85,997	49,426	59,466	42,226	90,338	32,471	59,987	107,263
会員数(男) C	1,020	1,393	1,657	902	1,283	633	1,148	940
男性会員数比率 (%)	73.8%	62.1%	56.0%	58.6%	57.1%	58.0%	60.9%	63.0%
会員数(女) D	362	851	1,301	636	964	459	762	553
女性会員数比率 (%)	26.2%	37.9%	44.0%	41.4%	42.9%	42.0%	39.1%	37.0%
会員数合計 E	1,382	2,244	2,958	1,538	2,247	1,092	1,910	1,493
粗入会率 (%) F(E/B)	1.6%	4.5%	5.0%	3.6%	2.5%	3.4%	3.4%	1.4%
28年度事業実績 (単位千円) G	628,174	970,752	1,264,220	458,235	959,106	469,880	791,728	429,583
会員1人当たりの事業実績 (単位千円) H(G/E)	455	433	427	298	427	430	412	288
就業率 (%) I	81.5	72.9	70.4	86.2	77.0	84.6	78.8	71.3

(注) 事業実績には、派遣事業等受託収益が含まれる。

【表 24】

先進シルバーの多様な取組み(抄)

大項目	中項目	取組み内容
会員数の拡大 に関すること	会員数拡大	会員希望に応じた就業(独自事業)の開拓
		会員による新会員獲得運動(紹介会員に粗品進呈)
		会員獲得報奨金制度
		退会抑制を目的に就業開拓委員(会員)が未就業会員に電話勧誘
		退会抑制を目的に業務委員(会員)が就業相談
		退会抑制を目的に未就業会員への優先就業紹介
	女性会員拡大	会費の夫婦割引
		女性向け新規事業の開拓
受注拡大 に関すること	営 業	「業務推進員」による「賛助会員」訪問による営業
		「高齢者雇用推進コーディネーター」による開拓
		「仕事承りリーフレット」を地区班長、職群班長が配布
		新規就業開拓のための企業訪問
		継続契約先訪問
		企業定期訪問
		市役所各課定期訪問
		既存契約者への定期訪問
		派遣を専門とした営業職員の配置
	就業拡大	派遣事業の推進
		核家族向け事業展開(産後家事ヘルプ事業、食育、子育て支援、認知症サポーター養成講座)
		会員仕事獲得キャンペーン(1件につき事務費5%還元)
		求人広告等から情報収集した企業への訪問
	就業率アップ	「地域生活サポート事業(ワンコインサービス)」(高齢者のみ世帯)を市内全域で実施
		企画提案事業の多岐に渡る展開
		新入会員と職員の面接、就業相談
		新入会員の速やかな就業
		企画提案補助事業で新規事業における初期投資と事業啓発を賄う
		就業相談会
		地域ニーズの収集と会員への情報提供
		就業意向調査の実施
		会員年齢に応じた段階的な就業の紹介
	指定管理事業等の 受託	女性向け新規事業の開拓
		市所有施設の指定管理
		市役所所有施設の指定管理
		弁天池公園指定管理
		喫茶店、食堂、売店の運営
	サービスの 質の向上	喫茶、サロン、貸農園、朝市出店
		ISO9001の取得
		接遇講習の受講義務化

大項目	中項目	取組み内容
事務局における 会員活用	—	配分金入力、請求書作成、電話対応、ホームページ管理
		派遣を専門とした営業
		家事援助コーディネーター
		企画提案国庫補助金事業補助員
広 報	印刷媒体	事業所へリーフレット送付
		新聞折り込みチラシ
		パンフレット、チラシの戸別配布、個別訪問
		市広報紙掲載(毎月)
	パブリシティ活動	イベントの活用
		イベントでのPR活動、イベント時に仕事相談コーナーの設置
		市役所ロビーで活動紹介
	その他	ロコミ(会員)活動
		FMIたみ、ケーブルテレビ出演
		テレビ・ラジオの活用
主な連携先	—	埼玉県民活動センター、東園教習所
		大学、町内会連合会、社会福祉協議会、経済団体、NPO等
		男女共同ネットワーク、安全運転管理者協議会、観光おもてなし市民運動推進会議、福井市子育て支援室
		ダイヤ高齢社会研究財団、社会福祉協議会、養父市シルバー人材センター、知的障害就労支援施設、市内関係団体
		自治連合会、社会福祉協議会、商店街連盟、門真市こども未来応援ネットワーク
会員の福利厚生	組 織	会員互助会の設立(センターからの助成無)
		親睦会
		福利厚生委員会
		会員互助会
	事 業	給付事業、レクリエーション事業、福利厚生
		日帰り旅行、新春のつどい、サークル育成、見舞金等
		保健師による健康相談会の実施
		親睦を深める事業、会員の教養・健康維持を図る事業
		会員特典

4 大津市総合計画

当センターの事業について、大津市施策との関連をより一層深めていきたいと考えています。大津市総合計画 2017 を【表 25】に取りまとめました。色付けした施策は、シルバー事業として実践していけるのではないかと期待しているものです。

【表 25】

大津市施策体系(大津市総合計画2017) 計画期間2017～2028

基本方針	基本施策	施策
1 子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	1 子どもの未来が輝く街にします	1 子育て環境の充実
		2 出産から育児への切れ目ない支援
		3 いじめ対策の推進
		4 子どもを守る仕組みの充実
		5 子供の教育の充実
	2 心豊かに暮らせる福祉が充実した街にします	6 高齢者の福祉・介護の充実
		7 障害者福祉の充実
		8 安定した社会保障制度の運営
	3 生き生きと健康に過ごせるまちにします	9 健康増進と地域医療の充実
		10 保健衛生の確保
		11 学校給食を始めとする食育の推進
		12 生涯学習の推進
		13 青少年の健全育成
	4 つながりを大切にし、共に支え合うまちにします	14 市民活動と協働の推進
		15 人権の尊重と平和社会の実現
		16 女性が活躍する社会の実現
		17 大学連携の推進
2 自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創ります	5 インバウンド観光で人が集い、にぎわうまちにします	18 オンリーワンを生かした国内外からの誘客の推進
		19 多文化共生・国際交流の推進
	6 自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします	20 琵琶湖を始めとする自然環境の保全
		21 環境教育の推進
	7 悠久の歴史と文化を大切にし、時代を継承します	22 湖都にふさわしい景観づくり
		23 歴史・文化遺産の保全・発信
	8 スポーツと文化で生き生きと楽しむまちにします	24 スポーツの普及・振興
		25 文化芸術に親しめる環境づくり
3 安心、安全に暮らすことの出来るまちにします	9 安心安全に暮らすことのできるまちにします	26 災害に強いまちづくりの推進
		27 防犯力の向上と生活安全の推進
		28 消防、救急体制の充実
		29 ライフラインの確保
	10 コンパクトで質の高い持続可能なまちにします	30 都市エリアの再生と地域形成
		31 公共交通ネットワークの再構築
		32 住環境の整備
	11 経済が活性化し、元気なまちにします	33 商工業の振興
		34 農林水産業の活性化
		35 就労支援と働き方の見直し
	12 再生可能エネルギーの活用とごみの適正処理でクリーンなまちにします	36 再生可能エネルギーの活用
		37 循環型社会の推進と土砂等の埋め立て規制の強化
	13 徹底した行財政改革を進め、確かな都市経営を進めます	38 行財政改革の強化と持続可能な都市経営
		39 公共施設マネジメントの推進
		40 開かれた市政の推進

「大津市総合計画2017」（大津市）をもとに作成

施策 1	子育て環境の充実	
	課題	少子化・核家族化の進行、保護者の働き方の多様化および女性の更なる活躍などにより子育て支援（保育サービス等）に対するニーズが多様化している。また、地域でのつながりの希薄化等を背景に孤立して行く親も少なくない。
	施策の方向	① 保育・幼児教育、児童クラブの「量」の確保と「質」の向上 ② 私立幼稚園3年保育の実施等、幼児教育の充実と規模の適正化 ③ 子供・子育て支援（「子供の育ち」、「子育ての支援」および「地域のつながり」の視点を重視）に取り組む。
施策 2	出産から育児への切れ目ない支援	
	課題	様々な要因により少子化が進んでいる。
	施策の方向	① 妊娠・出産・子育てに対する心理的、経済的負担を軽減することで、子供を産み育てることへの機運を醸成する。 ② 男性の育児・家事への参画推進
施策 4	子どもを守る仕組みの充実	
	課題	核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育て世代が孤立するケースが増え、児童虐待や子供の貧困等の問題が発生している。
	施策の方向	① 児童虐待の未然防止や早期発見、教育相談、学習支援と居場所づくり、関係機関との連携確保と迅速対応に取り組む。 ② 経済的困窮が原因で、成長に必要な物資不足、社会的経験や学習・教育・進学等の機会がはく奪され、子供たちの「貧困の連鎖」絶つための取り組みを行う。 ③ 乳幼児から学齢期まで子供の健やかな発達に関して一貫した対応を取る。
施策 6	高齢者の福祉・介護の充実	
	課題	高齢者の中でも75歳以上の人口増が顕著となり、単身高齢世帯数、高齢者のみの世帯数および認知症高齢者数の増加が深刻化する。
	施策の方向	① 高齢者がいつまでも元気で自立した生活が送れるよう、生涯スポーツ環境の充実や介護予防教室、公民館講座、高齢者就労支援等の充実を図る。 ② 医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保される体制を実現するため、在宅医療と介護の連携、認知症の早期診断および早期対応、高齢者の権利擁護等の取り組みを充実。また、生活支援サービスの充実、入所施設の整備および介護家族支援を行う。 ③ 在宅医療（訪問看護、在宅医療拠点の整備、在宅医療と病院の連携強化等）の充実
施策12	生涯学習の推進	
	課題	市民の生涯学習に対する意欲は広範囲かつ多岐に高まっている。その自己実現と学習成果を生かすことが求められている。
	施策の方向	① 生涯にわたって学べる環境づくり。 ② 地域づくりの担い手となる人材を育成する。
施策14	市民活動と協働の推進	
	課題	超高齢社会における見守り及び支え合い、災害時における助け合いなど、人のつながりによるあたたかい地域社会が求められている。
	施策の方向	① 市民活動の推進によるコミュニティの充実 ② 協働のまちづくり

施策16	女性が活躍する社会の実現	
	課題	女性の活躍推進や男女共同参画についての意識を高め、男女がお互いを尊重し、それぞれの個性や能力を発揮できる環境を整える必要がある。
	施策の方向	① 男女共同参画社会づくり ② 女性のエンパワメントを促進するため子育て支援等の環境整備を目指す。
施策18	オンリーワンを生かした国内外からの誘客の推進	
	課題	訪日外国人をさらに呼び込むとともに、国内観光客に対しても効果的な政策を展開する必要がある。
	施策の方向	① 本市の持つ観光資源を最大限に生かし、観光消費活動が促進されるよう来訪者の受け入れ体制整備等観光振興を目指す。
		② インバウンド観光への情報発信
		③ 広域観光プロモーションの充実
施策20	琵琶湖を始めとする自然環境の保全	
	課題	「湖都」として琵琶湖やそれにつながる河川を大切にし、水環境に優しいまちづくりを進める。「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が施行され、琵琶湖を始めとした自然環境の保全に関する市民の関心が高まっている。身近な生活空間及び森林、田園などの里地里山の自然が形成される潤いある豊かな生活空間の保全・再生が求められている。
	施策の方向	① 水環境の保全・再生
		② 里地里山等の環境を次世代に継承するため、適切な保全・再生を図るとともに、公園・緑地の適切な保全に努める。
		③ 市民の良好な生活環境を保全するため、環境監視を強化・充実する。
施策21	環境教育の推進	
	課題	琵琶湖や比良・比叡の山々など身近な自然環境に関する情報の発信や、自然環境を活用した環境教育の機会の提供が必要である。
	施策の方向	① 環境を理解して適切に行動できる「環境人」の育成に努めるとともに、その指導者の育成に取り組む。 ② 環境情報の収集・蓄積・発信
施策22	歴史文化遺産の保全・発信	
	課題	古都としての大津市は、数多くの国指定文化財を有しており、地域にも数多くの歴史・文化遺産が存在している。これら地域の文化遺産や地域の伝統行事や祭りを伝承していく必要がある。
	施策の方向	① 地域で脈々と培われてきた伝統文化の保全を進めるとともに、積極的な活用を図る。 ② 大津市の歴史文化遺産を国内外に発信し、歴史を生かしたまちづくりを進める。
施策23	古都にふさわしい景観づくり	
	課題	大津市の素晴らしい景観を市民共有の財産として守り、歴史や自然と調和した都市の景観形成に努める。
	施策の方向	古都にふさわしい景観を次代へと引き継ぐために、積極的な保全に努めるとともに、協働で自然景観および歴史的景観の保全及び創出に努める。

施策24	スポーツの普及・振興	
	課題	平成32年には東京オリンピック・パラリンピック、平成36年には滋賀国体・全国障害者スポーツ大会が開催される。市民の健康増進と心豊かな暮らしのために、生涯にわたりスポーツを楽しめる環境づくりが必要である。
	施策の方向	① 年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが生涯を通じて運動やスポーツを楽しむことができるよう機会やメニューを提供する。 ② 競技スポーツの推進

施策27	防犯力の向上と生活安全の推進	
	課題	市内における一般軽犯罪は窃盗罪の割合が高く、架空請求詐欺など犯罪の手口が巧妙化している。また高齢者が関係する死亡事故割合が増加傾向にあり、歩行者や自転車による事故の増加も懸念される。
	施策の方向	① 「自分たちの住むまちの安全は自分たちで守る」という防犯意識を高め、関係機関が連携して防犯活動に取り組む。 ② 交通安全のまちづくり ③ 消費者トラブルへの対応

施策32	住環境の整備	
	課題	人口減少社会の到来から、市営住宅の適正化、空き家等の問題が生じ、持続可能な住環境への対策が課題となっている。またペット文化の広がりにより、地域の住環境における問題は依然として少なくない。
	施策の方向	① 市営住宅の適正な維持管理のマネジメント ② 空き家が生活環境に影響を及ぼさないよう適正な管理を図るとともに住宅利用や地域の活性化のために有効活用を図る。 ③ 動物愛護の推進

施策33	商工業の振興	
	課題	事業者は人材の確保や育成及び情報収集等の分野で、多くの課題を抱えている。
	施策の方向	① 知的資源を生かした新産業の創出を図り、新たな雇用の創出と企業支援を進める。 ② 地場産業の継承

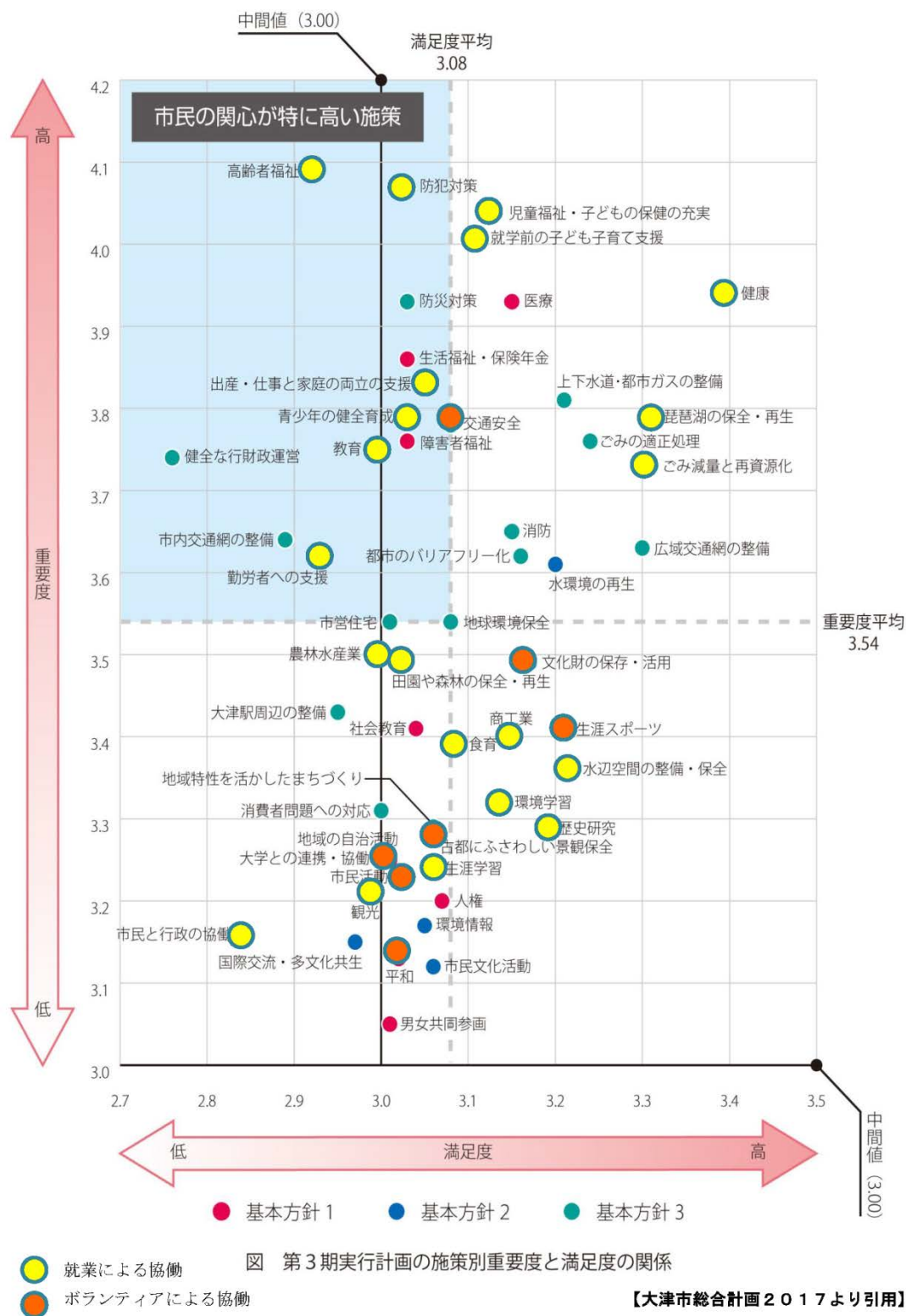
施策34	農林水産業の活性化	
	課題	高齢化や担い手不足の深刻化等により、都市近郊農業という大津市の地域特性が生かされていない。
	施策の方向	① 高齢化による担い手の減少に対処し、新たな担い手の育成に取り組む。 ② 地産地消の推進

施策35	就労支援と働き方の見直し	
	課題	少子高齢化の加速とともに人口減少が続く中、持続可能な経済発展や市内への定住を促進するとともに労働力不足解消にも取り組むことが求められている。また、仕事と生活の両方が図られるワーク・ライフ・バランスの実現や誰もがやりがいや充実感をもって就労できることが求められている。
	施策の方向	① 休職者が希望する働き方を選択できるよう就労支援を進める。 ② 雇用環境を整備する等働き方の改革を進める。

「大津市総合計画2017」（大津市）をもとに作成

【表 26】は大津市総合計画 2017 に掲載されている第 3 期実行計画の施策別重要度と満足度の関係を表したものです。特に、市民の皆さんが「重要度が高く満足していない事項」に「高齢者福祉」や「防犯対策」等が掲げられています。健康で元気な高齢者が就業を通じて、あるいはボランティアを通じて活躍するステージは、数多くあるものと考えられます。

【表 26】



5 課 題

国や大津市の高齢化の動向をふまえて、大津市シルバーの現在までの事業実施状況を先進シルバーの活動状況等と比較検討した結果、本事業計画では次の4つを課題として掲げることとします。

① 会員の拡大

会員数が増えないことには、今後の大津市シルバーの事業拡大は望めません。会員数の減少は大津市シルバーの衰退につながる極めて深刻な課題です。会員数を拡大し、数多くの高齢者に就業の喜びと生きがいをもってもらする必要があります。

② 受注の拡大

会員数の拡大と受注の拡大は、大津市シルバーが永続的に発展していくための車の両輪です。今まで不足していた営業活動の計画的な実施やシルバー事業の認知度の高揚を図る必要があります。

③ 公益性の拡大

本来シルバー事業は、地域密着型の事業に多くの期待が寄せられています。大津市施策との連携はもとより、地域のことは地域で守る意気込みで、就業およびボランティアを通して地域貢献し、シルバー事業の公益性を高める必要があります。

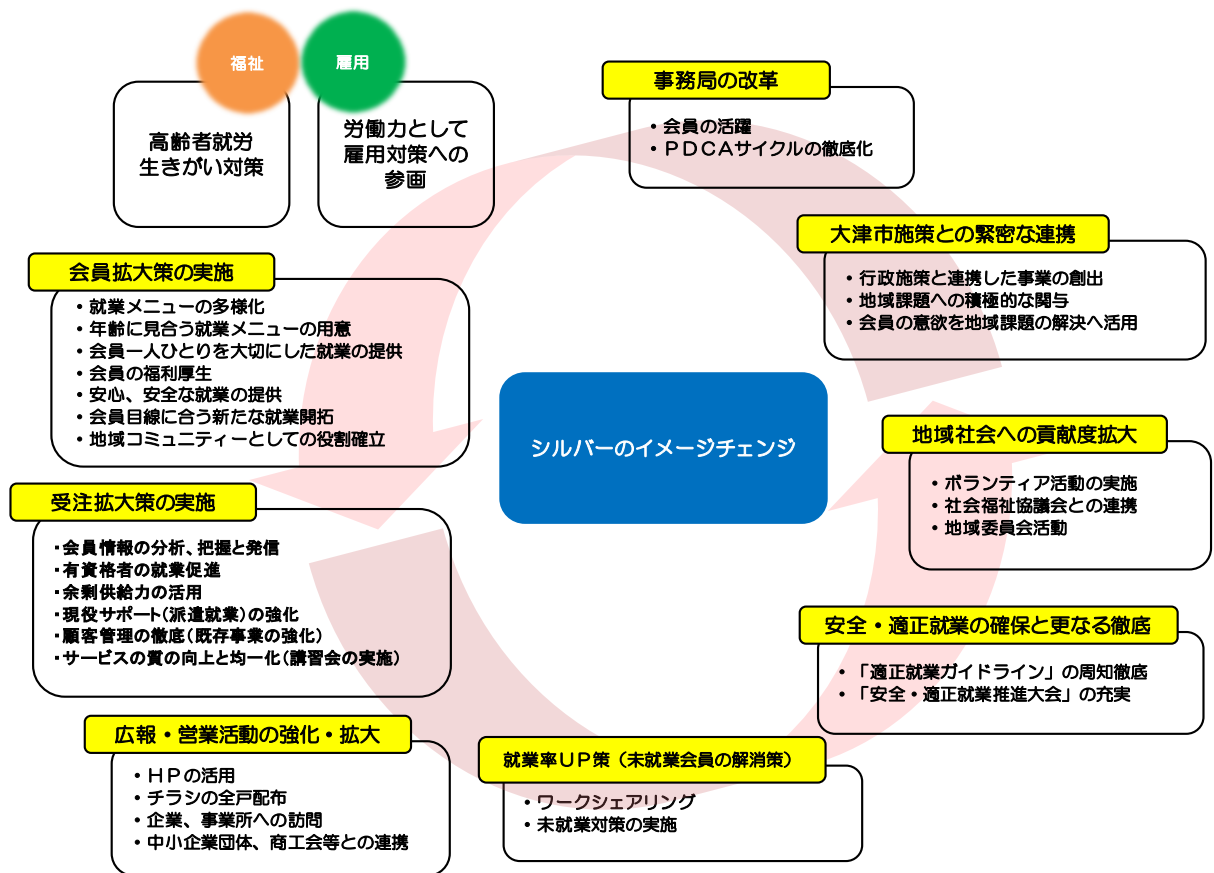
④ 中長期の経営の安定

シルバー人材センターの経営の安定は、超高齢社会において必要となる多様な事業を持続的に実施して行く上で、大変重要です。現在の経営状況を執行体制も含め検証し、課題の解決を図り、中長期的な経営の安定を図ります。

上記の課題を具体的に解決していくため、次の対策が必要となります。

6 課題解決のための対策

- ① 会員拡大策の実施
- ② 受注拡大策の実施
- ③ 広報・営業活動の強化・拡大
- ④ 就業率UP策（未就業会員の解消策）
- ⑤ 安全・適正就業の確保と更なる徹底
- ⑥ 地域社会への貢献度拡大
- ⑦ 大津市施策との緊密な連携
- ⑧ 事務局の改革



上記①から⑧の対策を実施するにあたっては、人的・財源的な諸課題を勘案しながら、優先度を測り、バランス良く、計画的に実施していきます。また、個々の事業実施に当たっては、PDCAサイクルを運用します。

シルバー事業に数多くの高齢者が参加し、その誰もが楽しんで継続的に就業されることが大切です。このことから、事業実施計画のコンセプトを『人生100年！！笑って生きる』にしました。

「笑い」は楽しさに通じます。楽しさは「継続」に繋がります。楽しみながら、生き生きと健康にシルバー事業に参加されるよう取り組みます。

『人生100年！！ 笑って生きる』につながる6つのスローガンのもと、事業計画を着実に実施することで事業収益、会員満足度を向上させます。

- ① 生涯現役でがんばるシルバー
「自分に合った就業が可能なシルバーを目指します」
- ② 顧客に喜ばれるシルバー
「より信頼いただけるシルバーを目指します」
- ③ 健康シルバー
「健康寿命100歳のシルバーを目指します」
- ④ 仲良しシルバー
「就業で「助け合い」を感じるシルバーを目指します」
- ⑤ 学べるシルバー
「新たなチャレンジ（趣味・特技）を応援するシルバーを目指します」
- ⑥ 考えるシルバー
「企画・立案・実行を応援するシルバーを目指します」

スローガンのイメージ



7 実施する事業メニュー

(1) 会員拡大策の実施（会員満足度の向上）

- ① 柔軟できめ細かい入会説明会を実施します。

入会説明会の簡素化や効率化を図る一方で、女性限定の説明会や年齢層に応じた説明会を開催する等、柔軟できめ細かい説明会を開催します。

また、入会を希望される方の利便性に配慮した「随時入会制度」を導入します。

- ② 入会の促進に努めます。

ア ホームページなどを活用して就業情報の的確な公開に努めます。

イ 入会促進のため、会員による入会拡大活動を行うとともに、シルバーが実施するイベント（旅行、競技会等）を会員限定とせず、一般の参加者にシルバー事業の良さや仲間づくりの楽しさを感じてもらいます。

ウ 女性会員を拡大するため、就業以外の「趣味」や「おしゃれ」等、女性に歓迎されるイベントを企画し、開催します。

- ③ 会費割引を検討します。

会員拡大のため会費については、割引制度を検討します。

- ④ 就業に有利な資格情報を積極的に提供するとともに、資格取得を支援する研修会等を実施します。

- ⑤ 年齢や体力に見合う就業の仕組みを作るとともに、多様な就業が期待できる指定管理業務の請負等の就業開拓を行います。

- ⑥ 健康推進に取り組みます。

ア 会員の健康な生活を応援するため、「健康相談」および「介護相談」を行います。

イ 広報紙で、医師のコメントや健康体験事例などを取り上げ、会員の健康増進に関する意識啓発に努めるとともに、総会や安全・適正就業推進大会等の行事で「健康増進コーナー」を設ける等、機会あるごとに健康増進に関する情報を発信します。

ウ 健康維持実践のため、介護予防体操「しゃんしゃん体操」、「ロコモ体操」、「柔軟体操」の紹介と推奨をホームページや会員専用サイト「Smile to Smile」で行います。

エ 『人生100年！！ 笑って生きる』の模範となる会員を表彰し、その裾野を広げていきます。

オ 日々の健康増進を奨励するため、「シルバー体力測定会」や「競技

会(グラウンドゴルフ、スポーツ吹き矢等)」の対抗戦を実施します。

⑦ 趣味の発信に取り組みます。

ア 趣味や特技を発表会や展示会でアピールする場や趣味や特技を生かすカルチャースクールを開設します。

イ 発表会や展示会の交流の中で、自主的な同好会等の設立を推進します。

⑧ おしゃれに生きることを応援します。

市内の服飾店や美容室の協力を得て、ファッションショーを開催し、健康で元気な高齢者をアピールしてもらいます。同時に、服飾品等の特価販売を要請します。ファッションショーの参加は会員限定としません。

⑨ 仲間を増やします。

ア 親睦旅行の実施や気楽におしゃべりできる喫茶店を提携協賛店として指定します。また、シルバー直営店「高齢者がゆつくりと集うことのできる場所」開設の調査検討を行います。

イ 会員に限定しないイベントの実施や高齢者と子どもたちが楽しむ機会を創ります。

(2) 受注拡大策の実施

① 元気でがんばることができる就業

ア 体力があり、元気でがんばる会員には、元気なことがより生かせる労働者派遣事業や介護保険事業等の就業開拓を推進します。併せて、職業紹介事業を充実します。

イ より多くの配分金収入が期待できる就業機会の拡大に努めます。

ウ 現役世代の「業務集中を緩和」または「本来業務の専念」のための短時間サポート就業を開拓します。

② 資格・経験をアピールする就業

ア 新規就業に結びつくよう、顧客向けに資格や実務経験等を、ホームページ上で、分かりやすく、丁寧に公開します。

イ 希望する就業を実務経験とともに公開することで、マッチングを推進し、就業に結び付けます。

③ 意欲・能力および年齢に応じた就業

マッチングを円滑に適切に行うため、会員一人ひとりの能力や経験を網羅する「会員個別台帳」を整備します。

④ 笑顔とともに仕事きっちり就業

ア 就業に関する遵守事項（挨拶、服装、安全対策、就業に関する注意事項、事故時の連絡先、健康管理等）や就業マニュアル等を整理した「会員便利帳」を整備します。

イ さわやかな対応がなされるよう接遇講習会を行います。また、講習会を通じて、「会員自らが営業マン」であることの意識を徹底します。

ウ 多様な請負メニューを用意し、発注者のニーズに応えます。

エ 「すぐ行きます」「すぐできます」サービスメニューの開発と仕組み作りを検討します。併せて、「くらしの便利屋」のスキルの拡大と向上を図ります。

オ リピーターを確保するための「特典」を検討します。

カ 発注者満足度アンケートを実施し、サービスの向上につなげます。

⑤ 顧客まるごとコーディネート

研修等で事務局職員が幅広く専門的な知識を高め、依頼を受けたサービスを単に提供するだけでなく、顧客の側に立ったトータルの助言ができるよう努めます。

⑥ 会員向け講習会を開催します。

会員が企画し、就業する「自己実現型就業」を推進するため、会員を講師とする講習会を開催します。講習会では、参加者に参加費を負担願ひ、負担金で講習会経費が賄えることを目標に運営します。

⑦ 会員の企画・立案、事業提案を応援します。

ア 「やりたい事業」を募集し、シルバー事業として採用していきます。

イ 採用されたシルバー事業には、広報をはじめ、補助事業採択を検討し、初期投資費用の負担等を行います。

ウ 会員の作成したウェブデザイン、DVD、手づくりおもちゃ等を販売します。

（３） 広報・営業活動の強化・拡大

① 数多くの人に新鮮で多彩な情報を提供することで、ホームページの充実を図り、広報の強化へつなげます。また、ホームページ上で会員や顧客とコミュニケーションが図れる双方向型広報を取り入れます。

② チラシ・パンフレットを工夫し、質の向上を図ります。

③ 新聞折り込みや自治会回覧等の広報に加え、戸別配布や公共施設等でチラシ等を配置する拠点広報を行い、広報に厚みを加えます。

④ 新規受注企業

市内企業、保育園および福祉施設等を綿密にリストアップし、計画的に営業活動を展開します。併せて、チラシを顧客視点で工夫し、顧客にわかりやすいものとします。

⑤ 既契約企業

継続または新規受注を受けるため、既契約先を訪問し、履行状況等を確認する企業訪問を定期的に行います。

(4) 就業率UP策（未就業会員の解消策）

① 意欲・能力および年齢に応じた就業

ア 新入会員等には、きめ細やかな就業ケアを行うために事務局で担当者を付けます。

イ 会員一人ひとりの意欲・能力および年齢に応じたきめ細やかなマッチングとシフト作りの工夫を行います。特に、新入会員または未就業会員には、一人ひとりの個別面談を実施します。

ウ 健康保持・延伸のため、体力がなくてもできる在宅等での就業（内職等）を検討します。

② 2人で仲良く就業

新入会員等1人で就業することが苦手な会員については、2人で出来る就業メニューを用意します。

③ 未就業会員就業強化月間の設定

未就業会員については、「未就業会員就業強化月間」を設け、未就業会員等の就業を促進します。

(5) 安全・適正就業の確保と更なる徹底

① ホームページ上で「適正就業ガイドライン」を周知し、機会あるごとに注意喚起します。

② 計画的・継続的な安全パトロールを実施し、安全就業に対する意識の徹底を図ります。

③ 「会員便利帳」の遵守事項に、安全対策を組み入れ、安全就業を推進します。

④ 「安全・適正就業推進大会」の内容の充実に努めます。

(6) 地域社会への貢献度拡大

- ① 地域の「絆」を応援する就業
 - ア 地域密着型のシルバーとするため、地域委員会の活躍の場を拡げます。
 - イ 自治会、自治連合会および社会福祉協議会との連携を模索します。
- ② 認知症抑制に挑戦する就業
 - ア 「認知症サポーター養成講座」受講を推進するとともに、認知症対策を実践される機関と連携します。
 - イ 医師や認知症関係機関の助言を得て、認知症予防・進行抑制が図れる就業の開拓と仕組みづくりを検討します。
- ③ 地域活動を推奨します。
 - ア 地域委員会の活動を通じて、見守り、防犯、環境美化等の活動を推進します。
 - イ 高齢者をターゲットにするオレオレ詐欺に対しては、チラシの配布や「だまされたふり作戦」に協力します。
 - ウ 地域で開催される各種イベントの主催や共催を検討します。
- ④ 地域おこし応援隊を編成します。

地域おこし応援隊を編成し、地域で開催されるイベントを盛り上げます。応援隊は、手づくりおもちゃの販売、バルーンアート、たこ焼き、焼き芋等の販売で会員の特技が生かされるものとしします。また、その他寺社仏閣、観光地等での活動を推進します。
- ⑤ 伝統文化を伝えます。

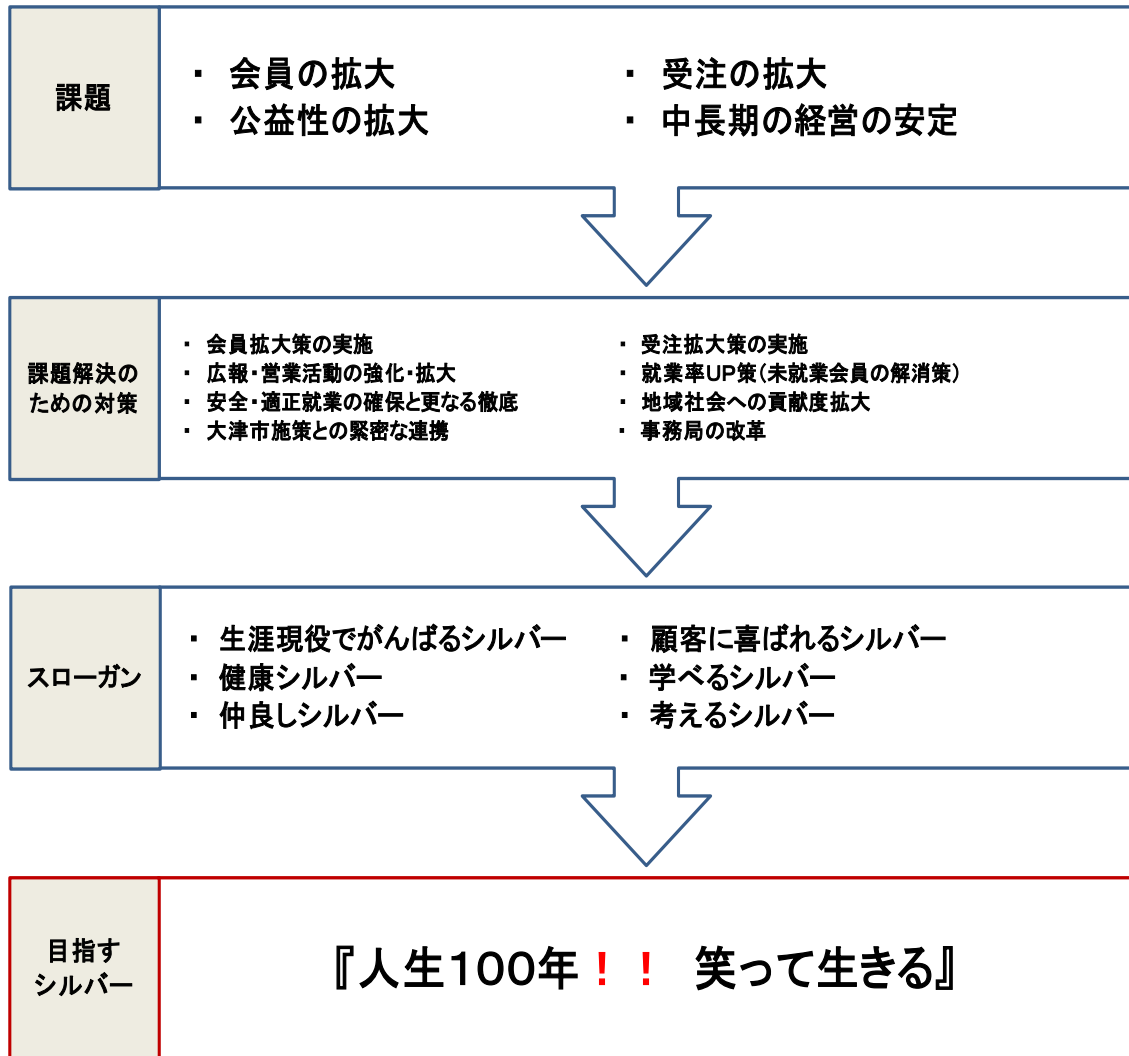
伝統文化を守っている会員を講師として、伝承会を開催します。また伝統文化行事の参加者を募ります。

(7) 大津市施策との緊密な連携

- ① 現行の生活支援サービスおよび訪問介護に付帯するサービスの内容を充実し、利用者の要望に応えます。
- ② 大津市各課と連携を図り、新規事業の開拓に努めます。
- ③ 耕作放棄地対策として、シルバー農園の事業化を検討します。
- ④ 困ったときに気軽に頼めるワンコインサービスのメニューを調査検討し、事業化を図ります。
- ⑤ 年々増加する空き家について、大津市と協議し、その適切な管理を請け負います。

(8) 事務局の改革

- ① 事務局業務のマニュアル化を進め、会員就業メニューに事務局業務を加えます。
- ② 事務組織の省力化・効率化を図ります。



Ⅲ 計画事業の推進

1 実施事業の優先順位

- ① 会員拡大および受注拡大につながる広報および営業活動を第1期とします。
- ② 経費的な課題が少なく、すぐ取り掛かれる事業を第1期とします。
- ③ 新規事業および経費を要するものは第2期とします。
- ④ 補助事業の実施等協議調整が必要な事業は第2期としますが、協議は第1期から始めることとします。
- ⑤ その他全体の業務バランスを勘案して、実施時期を検討します。

2 計画期間別の事業進捗管理

(1) 計画全期間を通して実施する事業

- 継続的で幅広い広報
- 継続的で的確な営業
- 未就業会員0を目指す取り組み
- 安全・適正就業への取り組み

(2) 第1期計画期間

重点的な取り組み

- ① シルバー人材センターの認知度を上げるための方策に力点を置くこととし、会員の拡大、受注の拡大これらに付帯する広報を強化する。
- ② 新規事業実施のための調査検討や関係機関との調整協議を進める。

(3) 第2期計画期間

重点的な取り組み

- ① 第1期計画期間の全体的な検証とこれに伴う第2期計画期間の見直し
- ② 新規事業の打出し

(4) 第3期計画期間

重点的な取り組み

第1期および第2期計画期間の事業実施検証と次期中長期計画とのつなぎ期間

(5) 計画期間別の実施事業

【表27】「計画事業の推進」のとおり

3 手数料改定の基本的な考え方

手数料の改定は、第1期から第2期計画期間の収支状況および他のシルバーの手数料率の状況等を総合的に検討し、会員・顧客や関係機関の理解を得ながら決定していく。2段階改定を予定し進めていく。

【表27】 計画事業の推進

第1期		
2018(平成30)年度	2019(平成31)年度	2020(平成32)年度
■ 入会説明会の簡素化や効率化を図る一方で、女性限定の説明会や年齢層に応じた説明会を開催する等、柔軟できめ細かい説明会を開催します。また、入会を希望される方の利便性に配慮した「随時入会制度」を導入します。 ■ ホームページなどを活用して就業情報の的確な公開に努めます。 ■ 会員拡大のため会費については、割引制度を検討します。 ■ 会員の健康な生活を応援するため、「健康相談」および「介護相談」を行います。 ■ 広報紙で、医師のコメントや健康体験事例などを取り上げ、会員の健康増進に関する意識啓発に努めるとともに、総会や安全・適正就業推進大会等の行事で「健康増進コーナー」を設ける等、機会あるごとに健康増進に関する情報を発信します。 ■ 健康維持実践のため、介護予防体操「しゃんしゃん体操」、「ロコモ体操」、「柔軟体操」の紹介と推奨をホームページや会員専用サイト「Smile to Smile」で行います。 ■ 『人生100年！！ 笑って生きる』の模範となる会員を表彰し、その裾野を広げていきます。 ■ 市内の服飾店や美容室の協力を得て、ファッションショーを開催し、健康で元気な高齢者をアピールしてもらいます。同時に服飾品等の特価販売を要請します。ファッションショーの参加は会員限定としません。 ■ 親睦旅行の実施や気楽におしゃべりできる喫茶店を提携協賛店として指定します。また、シルバー直営店「高齢者がゆっくりと集うことのできる場所」開設の調査検討を行います。 ■ 新規就業に結びつくよう、顧客向けに資格や実務経験等を、ホームページ上で、分かりやすく、丁寧に公開します。 ■ 希望する就業を実務経験とともに公開することで、マッチングを推進し、就業に結び付けます。 ■ マッチングを円滑に適切に行うため、会員一人ひとりの能力や経験を網羅する「会員個別台帳」を整備します。□ ■ 就業に関する遵守事項(挨拶、服装、安全対策、就業に関する注意事項、事故時の連絡先、健康管理等)や就業マニュアル等を整理した「会員便利帳」を整備します。 ■ さわやかな応対がなされるよう接遇講習会等を行います。また、講習会を通じて、「会員自らが営業マン」であることの意識を徹底します。□ ■ 多様な請負メニューを用意し、発注者のニーズに応えます。 ■ 「すぐ行きます」「すぐできます」サービスメニューの開発と仕組み作りを検討します。併せて、「くらしの便利屋」のスキルの拡大と向上を図ります。 ■ リピーターを確保するための「特典」を検討します。 ■ 発注者満足度アンケートを実施し、サービスの向上につなげます。 ■ 研修等で事務局職員が幅広く専門的な知識を高め、依頼を受けたサービスを単に提供するだけでなく、顧客の側に立ったトータル的な助言ができるよう努めます。 ■ 会員が企画し、就業する「自己実現型就業」を推進するため、会員を講師とする講習会を開催します。講習会では、参加者に参加費を負担願ひ、負担金で講習会経費が賄えることを目標に運営します。 ■ 「やりたい事業」を募集し、シルバー事業として採用していきます。 ■ 新入会員等には、きめ細やかな就業ケアを行うため事務局で担当者を付けます。 ■ 会員一人ひとりの意欲・能力および年齢に応じたきめ細やかなマッチングとシフト作りの工夫を行います。特に、新入会員または未就業会員には、一人ひとりの個別面談を実施します。 ■ 健康保持・延伸のため、体力がなくてもできる在宅等での就業(内職等)を検討します。 ■ 新入会員等1人で就業することが苦手の会員については、2人で出来る就業メニューを用意します。 ■ 未就業会員については、「未就業会員就業強化月間」を設け、未就業会員等の就業を促進します。 ■ ホームページ上で「適正就業ガイドライン」を周知し、機会あるごとに注意喚起します。 ■ 計画的・継続的な安全パトロールを実施し、安全就業に対する意識の徹底を図ります。 ■ 「安全・適正就業推進大会」の内容の充実に努めます。 ■ 地域密着型のシルバーとするため、地域委員会の活躍の場を拓けます。 ■ 「認知症サポーター養成講座」受講を推進するとともに、認知症対策を実践される機関と連携します。 ■ 地域委員会の活動を通じて、見守り、防犯、環境美化等の活動を推進します。 ■ 高齢者をターゲットにするオレオレ詐欺に対しては、チラシの配布や「だまされたふり作戦」に協力します。 ■ 地域おこし応援隊を編成し、地域で開催されるイベントを盛り上げます。応援隊は、手づくりおもちゃの販売、バルーンアート、たこ焼き、焼き芋等の販売で会員の特技が生かされるものとします。また、その他寺社仏閣、観光地等での活動を推進します。 ■ 現行の生活支援サービスおよび訪問介護に付帯するサービスの内容を充実し、利用者の要望に応えます。 ■ 年々増加する空き家について、大津市と協議し、その適切な管理を請け負います。		■ 会員拡大策の実施 ■ 受注拡大策の実施 ■ 広報・営業活動の強化・拡大 ■ 就業率UP策(未就業会員の解消策) ■ 安全・適正就業の確保と更なる徹底 ■ 地域社会への貢献度拡大 ■ 大津市施策との緊密な連携 ■ 事務局の改革

第2期		
2021(平成33)年度	2022(平成34)年度	2023(平成35)年度
■ 入会促進のため、会員による入会拡大活動を行うとともに、シルバーが実施するイベント(旅行、競技会等)を会員限定とせず、一般の参加者にシルバー事業の良さや仲間づくりの楽しさを感じてもらいます。 ■ 女性会員を拡大するため、就業以外の「趣味」や「おしゃれ」等、女性に歓迎されるイベントを企画し、開催します。 ■ 就業に有利な資格情報を積極的に提供するとともに、資格取得を支援する研修会等を実施します。 ■ 年齢や体力に見合う就業の仕組みを作るとともに、多様な就業が期待できる指定管理業務の請負等の就業開拓を行います。 ■ 日々の健康増進を奨励するため、「シルバー体力測定会」や「競技会(グラウンドゴルフ、スポーツ吹き矢等)」の対抗戦を実施します。 ■ 趣味や特技を発表会や展示会でアピールする場や、趣味や特技を生かすカルチャースクールを開設します。 ■ 発表会や展示会の交流の中で、自主的な同好会等の設立を推進します。 ■ 会員に限定しないイベントの実施や高齢者と子どもたちが楽しむ機会を創ります。 ■ 体力があり、元気がでる会員には、元気なことがより生かせる労働者派遣事業や介護保険事業等の就業開拓を推進します。併せて、職業紹介事業を充実します。 ■ 採用されたシルバー事業には、広報をはじめ、補助事業採択を検討し、初期投資費用の負担等を行います。 ■ 会員の作成したウェブデザイン、DVD、手づくりおもちゃ等を販売します。 ■ 「会員便利帳」の遵守事項に、安全対策を組み入れ、安全就業を推進します。 ■ 自治会、自治連合会および社会福祉協議会との連携を模索します。 ■ 医師や認知症関係機関の助言を得て、認知症予防・進行抑制が図れる就業の開拓と仕組みづくりを検討します。 ■ 地域で開催される各種イベントの主催や共催を検討します。 ■ 伝統文化を守っている会員を講師として、伝承会を開催します。また伝統文化行事の参加者を募ります。□ ■ 大津市各課と連携を図り、新規事業の開拓に努めます。 ■ 耕作放棄地対策として、シルバー農園の事業化を検討します。 ■ 困ったときに気軽に頼めるワンコインサービスのメニューを調査検討し、事業化を図ります。 ■ 事務局業務のマニュアル化を進め、会員就業メニューに事務局業務を加えます。		
		■ 会員拡大策の実施 ■ 受注拡大策の実施 ■ 広報・営業活動の強化・拡大 ■ 就業率UP策(未就業会員の解消策) ■ 安全・適正就業の確保と更なる徹底 ■ 地域社会への貢献度拡大 ■ 大津市施策との緊密な連携 ■ 事務局の改革
第3期		
2024(平成36)年度		
各取り組みの検証		
各取り組みの見直し		
来期経営事業計画の検討		
来期経営事業計画の策定		
全期間		
2018(平成30)年度 ～ 2024(平成36)年度		
■ より多くの配分金収入が期待できる就業機会の拡大に努めます。 ■ 現役世代の「業務集中を緩和」または「本来業務の専念」のための短時間サポート就業を開拓します。 ■ 数多くの人に新鮮で多彩な情報を提供することで、ホームページの充実を図り、広報の強化へつなげます。また、ホームページ上で会員や顧客とコミュニケーションが図れる双方向型広報を取り入れます。 ■ チラシ・パンフレットを工夫し、質の向上を図ります。 ■ 新聞折り込みや自治会回覧等の広報に加え、戸別配布や公共施設等でチラシ等を配置する拠点広報を行い、広報に厚みを加えます。 ■ 市内企業、保育園および福祉施設等を綿密にリストアップし、計画的に営業活動を展開します。併せて、チラシを顧客視点で工夫し、顧客にわかりやすいものとします。 ■ 継続または新規受注を受けるため、既契約先を訪問し、履行状況等を確認する企業訪問を定期的に行います。 ■ 事務事業の省力化・効率化を図ります。		

Ⅳ 中長期経営事業計画推進のための事務組織の的確化・効率化

中長期経営事業計画を着実に円滑に実施していくために、組織力を強化します。執行組織を見直すとともに能力主義に立脚した人事制度を構築します。また、毎年次「組織目標」を定め、この目標を基に職員の意識の高揚と意思の疎通を図れるよう、事務局の執行体制を見直しします。また、現行の「経営事業計画検討委員会作業部会」を「経営事業計画推進チーム」に改組し、計画推進の組織とします。

1 PDCAサイクルの徹底

- ① 事業の進捗状況を管理します。
- ② 半期単位に実施事業の成果の検証を行い、見直しを行い、新たな計画を策定し、実施します。
- ③ 徹底を担保するため「進行管理委員会」の設置を検討します。

2 事務組織の省力化・効率化と業務のマニュアル化

事務局業務のマニュアル化を進め、組織の省力化・効率化を進めます。

3 研修機会の拡大

研修の参加機会を拡大し、事務局の能力の向上に努めます。

4 会員の参画

事務局の事務執行においては、積極的に会員の活躍を図ります。

Ⅴ 計画期間における収支見通し

収支見込 2018(平成30)年度～2024(平成36)年度

科目	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度)	2021年度 (平成33年度)	2022年度 (平成34年度)	2023年度 (平成35年度)	2024年度 (平成36年度)
収益							
受託事業収益	315,105,891	327,175,505	341,960,427	359,255,924	379,848,967	401,451,432	429,337,444
既存事業 (除草、剪定、屋外清掃)	182,519,021	184,065,332	185,626,093	187,201,447	188,791,538	190,396,514	192,174,393
新規重点開拓事業 (屋内清掃、管理、生活支援、 子育て支援、その他)	132,586,870	143,110,173	156,334,334	172,054,477	191,057,429	211,054,918	237,163,051
労働者派遣事業等受託収益	7,769,025	7,532,775	7,992,274	8,479,803	8,997,071	9,545,892	10,143,470
介護保険事業収益	79,564,340	80,208,811	80,858,502	81,513,456	82,173,715	82,839,322	83,548,130
事業収益計	402,439,256	414,917,091	430,811,203	449,249,183	471,019,753	493,836,646	523,029,044
受取会費	3,012,000	3,278,400	3,376,200	3,545,400	3,721,800	3,906,000	4,104,000
受取補助金等	31,111,000	46,050,000	47,430,000	49,800,000	52,290,000	54,900,000	57,660,000
その他収益	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000
経常収益計	436,625,256	464,308,491	481,680,403	502,657,583	527,094,553	552,705,646	584,856,044
費用							
受託事業費	299,701,343	312,228,059	325,117,798	341,554,683	359,488,062	383,829,446	405,601,998
広報費	2,000,000	3,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000
研修費	500,000	1,500,000	3,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	6,000,000
役員報酬	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,800,000
役員等旅費交通費	1,095,000	1,095,000	1,095,000	1,095,000	1,095,000	1,095,000	1,095,000
人件費	99,931,579	102,404,709	99,412,034	102,016,210	101,551,219	102,978,930	104,716,780
固定費	35,951,979	37,377,158	39,047,152	40,949,349	43,150,953	45,471,419	48,375,572
新規事業等投入調整費	0	4,903,565	5,208,419	3,242,341	8,009,319	5,563,251	10,723,067
経常費用	440,979,901	464,308,491	481,680,403	502,657,583	527,094,553	552,738,046	585,312,417
経常増減額	-4,354,645	0	0	0	0	-32,400	-456,373

(注1) 平成33年度より事務費12%に変更

(注2) 平成36年度より事務費15%に変更

大津市シルバー人材センター経営事業計画検討委員会名簿

【平成 29 年 10 月 27 日現在】

区分	氏名	所属団体および役職
座長	塚本 成美	城西大学経営学部教授
委員	細川 力男	大津市健康保険部長寿政策課長
委員	北村 邦彦	株式会社しがぎん経済文化センター産業・市場調査部主席研究員
委員	兼永 敏博	N R I 社会情報システム株式会社営業部マーケティング担当課長
委員	森本 佳博	公益社団法人滋賀県シルバー人材センター連合会事務局長
委員	中島 克也	公益社団法人滋賀県シルバー人材センター連合会事務局次長
事務局	上田 正博	公益社団法人大津市シルバー人材センター事務局長
事務局	中野 千栄子	公益社団法人大津市シルバー人材センター福祉課長
事務局	若代 裕子	公益社団法人大津市シルバー人材センター総務課長代理
事務局	山口 貴之	公益社団法人大津市シルバー人材センター総務課長代理
事務局	原田 孝一	公益社団法人大津市シルバー人材センター業務課長代理
事務局	金丸 千秋	公益社団法人大津市シルバー人材センター総務課主任
事務局	佐藤 慶一	公益社団法人大津市シルバー人材センター業務課主任
事務局	本間 有季恵	公益社団法人大津市シルバー人材センター福祉課主任
事務局	佐藤 大介	公益社団法人大津市シルバー人材センター福祉課職員

(敬称略・順不同)

謝辞

本中長期経営事業計画の策定におきましては、有識者の方々より丁寧な数多くのご指導、ご助言をいただきました。厚く御礼申し上げます。

中長期経営事業計画

「人生１００年！！ 笑って生きる」

平成３０年５月発行

編集・発行 公益社団法人大津市シルバー人材センター
〒520-0043 滋賀県大津市中央二丁目２番５号
TEL 077-525-2528 FAX 077-525-2261
URL <http://www.sjc.ne.jp/otsu/>

印刷 ラクスル株式会社
〒141-0021 東京都品川区上大崎二丁目２４番９号アイケイビル１Ｆ
URL <https://corp.raksul.com/>

無断複製・転載を禁ずる

人生100年!!
笑って生きる

